

車への取り付けは、必ずこの取付説明書と別冊の「安全上のご注意」に従って正しく行ってください。指定以外に取り付け方や指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。この場合は、当社では一切の責任を負いかねます。

販売店様へ

接続、取り付け作業が完了しましたら、この取付説明書はお客様へお渡しください。

※ 別売製品の接続および取り付けについては、別売製品に付属の説明書も併せてご覧ください。



PRINTED WITH
SOY INK™

この説明書の印刷には、植物性大豆油インキを使用しています。

パイオニア株式会社

〒212-0031

神奈川県川崎市幸区新小倉1番1号

© パイオニア株式会社 2010

< KAMZF > < 10C00000 > < CRA4364-A >

作業の進めかた

① はじめに

- 接続・取り付け部品を確認する —— 2ページ

② 接続のしかた

- 接続の前に知ってほしいこと —— 6ページ
- 接続端子の名称と働き —— 8ページ
- システムの接続 —— 10ページ
- 電源コードの接続 (1) —— 12ページ
- 電源コードの接続 (2) —— 14ページ
- スピーカーの接続 —— 16ページ
- 外部アンプの接続 —— 17ページ
- リアモニターへの接続 —— 18ページ
- VTR・IP-BUS機器の接続 —— 19ページ
- 携帯電話・通信モジュールの接続 —— 20ページ

③ 取り付けかた

- 取り付けの前に知ってほしいこと —— 22ページ
- モニターユニットの取り付け —— 24ページ
- ナビゲーション本体の取り付け —— 27ページ
- B-CASカードリーダーの取り付け —— 31ページ
- GPSアンテナの取り付け —— 32ページ
- 音声認識用マイクの取り付け —— 33ページ
- リモコンの取り付け —— 34ページ
- フィルムアンテナの取り付け —— 38ページ

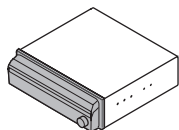
④ 接続・取り付けが終わったら

- 接続・取り付けの確認を行う —— 46ページ
- 取付角度の設定を行う —— 48ページ
- システム設定を行う —— 49ページ
- センサー学習のエラーメッセージ —— 51ページ

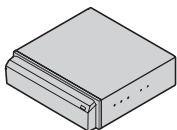
接続・取り付けが終わったら、必ず接続・取り付けの確認～システム設定 (46～50ページ)を行ってください。

接続・取り付け部品を確認する

モニターユニット・本体関係



モニターユニット
× 1



ナビゲーション本体
× 1



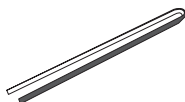
バインドネジ
(4 × 3 mm) × 2



バインドネジ
(5 × 6 mm) × 8



皿ネジ
(5 × 6 mm) × 8



目隠しシール
× 1

別売の取付キット用



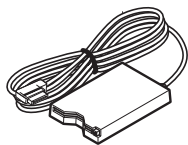
プッシュ × 1



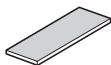
ネジ × 1

※ プッシュを使用したナビゲーション本体の取り付けを行う場合、本機に付属のネジとプッシュを使用してください。別売の取付キットに同梱のネジ、プッシュを使用すると、正しく取り付けられないためナビゲーション本体の故障の原因となります。

B-CASカードリーダー関係



B-CASカード
リーダー × 1

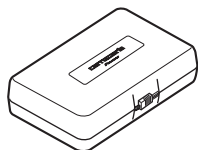


両面テープ × 2



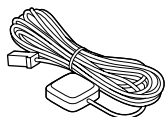
B-CASカード × 1

ブレイユニット関係



ブレイユニット × 1 キャリングケース × 1

GPSアンテナ関係



GPSアンテナ × 1



金属シート × 1

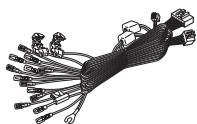


クランパー × 3

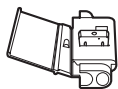


両面テープ × 1

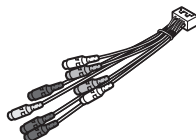
接続ケーブル関係



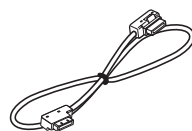
電源コード × 1



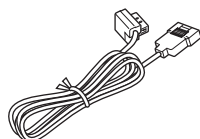
Uエレメント
コネクター × 1



RCA入出力
ケーブル × 1



34ピンRGB
ケーブル × 1



携帯電話接続中継
ケーブル × 1

接続・取り付け部品を確認する

つづき

音声認識用マイク関係



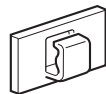
音声認識用マイク × 1



マイククリップ × 1



両面テープ
(12 × 15 mm) × 1



クランパー × 3

音響特性測定用マイク関係



音響特性測定用マイク
(φ3.5mm) × 1

※ 測定時のみ使用します。
接続先は『オーディオブック』－
「AUTO TA&EQの設定方法」を
ご覧ください。

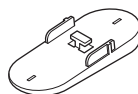
リモコン関係



リモコン × 1



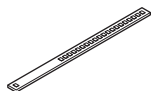
リチウム電池
(CR2032) × 1



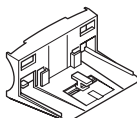
リモコンホルダー × 1



両面テープ × 1

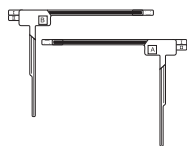


ベルト × 2



ステアリング
ホルダー × 1

フィルムアンテナ関係



フィルムアンテナ
A・B 各2



アンテナケーブル
①・②・③・④ 各1



クリーナークロス
× 1



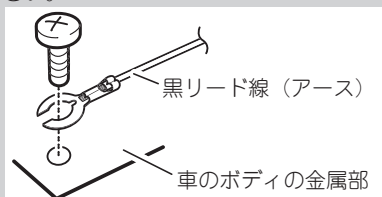
クランパー × 6

接続の前に知ってほしいこと

— 必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください —

接続上のご注意

- 本機の黒リード線（アース）を必ず最初に車のボディの金属部に確実に接続してください。

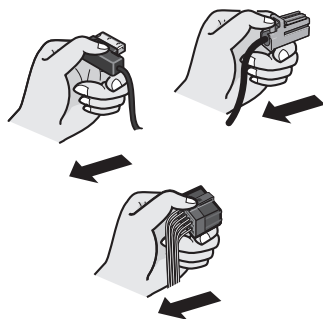


- 本機は、エンジンスイッチにACCポジションがない車では使用できません。絶対に取り付けしないでください。取り付けると、バッテリー上がりの原因になります。
- 赤リード線（アクセサリ電源）は、常にバッテリーから電源が供給される電源回路には接続しないでください。接続すると車のバッテリーが消耗します。
- 若草色リード線（パーキングブレーキスイッチ）は、必ずパーキングブレーキスイッチの電源側に接続してください。接続しないと一部の機能が使用できなくなります。
- 黒リード線（アース）は、パワーアンプなどの消費電流が大きい製品のアースとは別々に取り付けてください。まとめて取り付けると、ネジが緩んだり外れたりしたとき、製品の発煙・故障の原因となるおそれがあります。
- 必ず付属の部品を指定どおりに使用してください。指定以外の部品を使用すると故障するおそれがあります。
- スピーカーのリード線を直接アースしたり、複数のスピーカーの（-）リード線を、共通にして接続しないでください。
- 本機と組み合わせるスピーカーには、最大入力50W以上のハイパワー用で、インピーダンスが4Ωから8Ωのものを使用してください。規格以外のスピーカーのご使用は、スピーカーやアンプの発火・発煙・破損の原因となります。
- ガラスアンテナ車など、アンテナブースターの電源がある場合、必ず本機の青リード線（アンテナコントロール）を車側のアンテナブースターの電源に接続してください。接続を忘れるとラジオ放送やVICS情報の受信ができません。

アンテナブースターの電源の位置は、車種によって異なります。詳しくは、取り付け技術のある販売店にご相談ください。

コネクターの着脱のしかた

- コネクターは、“カチッ”と音がするまで押し込んで、確実に接続してください。スムーズに入らない場合は、色が間違っている可能性がありますので、コネクターどうしの色を確認してください。また、無理に挿入しないでください。故障の原因となる場合があります。
- コネクターを外すときは、図のようにコネクター部分を持ってロックを押しながら引っ張ってください。コードを引っ張るとコードが抜けてしまうことがあります。



接続のポイント

ノイズ防止のために

- ノイズ防止のため、次のものはナビゲーション本体やモニターユニット、B-CASカードリーダー、他のケーブル類、コード類からできるだけ離して配置してください。
 - * フィルムアンテナおよびそのアンテナコード
 - * FM/AMアンテナおよびそのアンテナコード
 - * GPSアンテナおよびそのアンテナコード
 - * ビーコン受信機およびそのアンテナコード
- それぞれのアンテナコードどうしてもできるだけ離してください。一緒に束ねたり、重ねたり、交差させたりしないでください。アンテナやアンテナコードにノイズが飛び込むと受信感度が悪くなります。
- RCAコードに何も接続しない場合は、付属のキャップを外さないでください。

IP-BUSケーブルの接続について

- IP-BUS端子とIP-BUSケーブルは、同じ色どうしを接続してください。(コネクターの接続部分が色分けされています。) 違う色のコネクターを接続すると、正常に動作しないことがあります。

ピンクリード線の接続について

- ピンクリード線(車速信号入力)は、内蔵の3Dハイブリッドセンサー用のリード線です。必ず接続してください。
- ピンクリード線を接続しない場合は、簡易ハイブリッド方式で動作し、測位誤差が大きくなる場合があります。(※ 『ナビゲーションブック』の「ナビゲーションのしくみ」)

電源配線キットを別売しています

- システム全体の消費電流が大きくなると、電圧が不足する場合があります。そのようなときは、バッテリーから直接電源をお取りください。当社では、電源配線キット「RD-221」を別売していますので、販売店にご相談ください。

携帯電話接続ケーブルまたは、Bluetoothユニットを別売しています

- 当社では、携帯電話と組み合わせるための携帯電話接続ケーブルまたは、Bluetoothユニットを別売しています。
 - * FOMA用ケーブル「CD-H15」(2 m)
 - * CDMA 1X WIN用ケーブル「CD-H16」(2 m)
 - * Bluetoothユニット「ND-BT10」

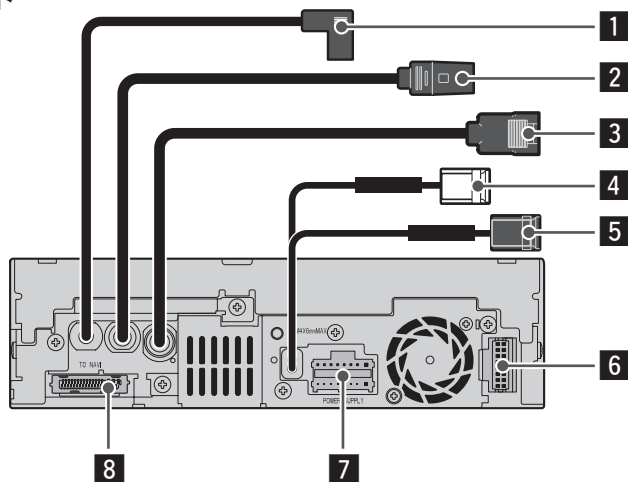
メモ

- 本機に、PDC用ケーブル「CD-H13」および CDMA 1X/cdmaOne用ケーブル「CD-H14」および Bluetoothユニット「ND-BT1」は接続できません。

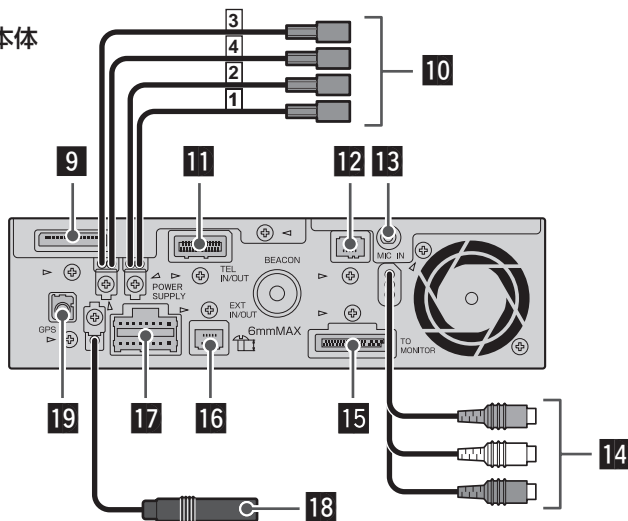
接続端子の名称と働き

— 必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください —

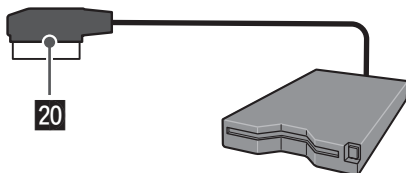
モニターユニット



ナビゲーション本体



B-CAS カードリーダー



モニターユニット

1 IP-BUS入力 (青)

別売のIP-BUS機器が接続できます。
(15 19ページ)

2 iPod 接続端子 (黒)

別売のiPod用接続ケーブル「CD-I021」を使用してiPodが接続できます。
(15 10～11ページ)

3 コンポーネント映像出力端子 (青)

別売の26ピンコンポーネントケーブル「CD-CP300」を使用して、コンポーネント映像入力付きのリアモニターが接続できます。(15 18ページ)

4 フロントカメラ接続端子 (白)

別売のフロントカメラユニットが接続できます。
(15 10～11ページ)

5 バックカメラ接続端子 (黒)

別売のバックカメラユニットが接続できます。
(15 10～11ページ)

6 映像・音声入出力端子 (白)

付属のRCA入出力ケーブルを接続します。
(15 16～18ページ)

7 電源端子 (若草色)

付属の電源コード*を接続します。
(15 12～13、16～17ページ)

8 34ピンRGB入力端子 (黒)

付属の34ピンRGBケーブルで、ナビゲーション本体に接続します。
(15 10～11ページ)

ナビゲーション本体

9 B-CASカードリーダー接続端子 (黒)

付属のB-CASカードリーダーを接続します。
(15 10～11ページ)

10 フィルムアンテナ接続端子 (茶)

付属のフィルムアンテナ1～4それぞれを接続します。(15 10～11ページ)

11 通信機器接続端子 (赤)

通信機器や拡張ユニットが接続できます。
(15 20～21ページ)

12 ビーコンユニット接続端子 (青)

別売のVICS用ビーコンユニットが接続できます。(15 10～11ページ)

13 音声認識用マイク入力端子 (黒)

付属の音声認識用マイクを接続します。
(15 10～11ページ)

14 RCA映像・音声入力端子 (黄・赤・白)

ポータブルビデオなどが接続できます。
(15 19ページ)

15 34ピンRGB出力端子 (黒)

付属の34ピンRGBケーブルで、モニターユニットに接続します。
(15 10～11ページ)

16 拡張入出力端子 (黒)

別売のDSRCユニットまたはETCユニットが接続できます。(15 10～11ページ)

17 電源端子 (黒)

付属の電源コード*を接続します。
(15 12～15ページ)

18 AM/FM/FM多重用アンテナ入力端子 (黒)

車載のラジオ用アンテナに接続します。
(15 10～11ページ)

19 GPSアンテナ接続端子 (緑)

付属のGPSアンテナを接続します。
(15 10～11ページ)

B-CASカードリーダー

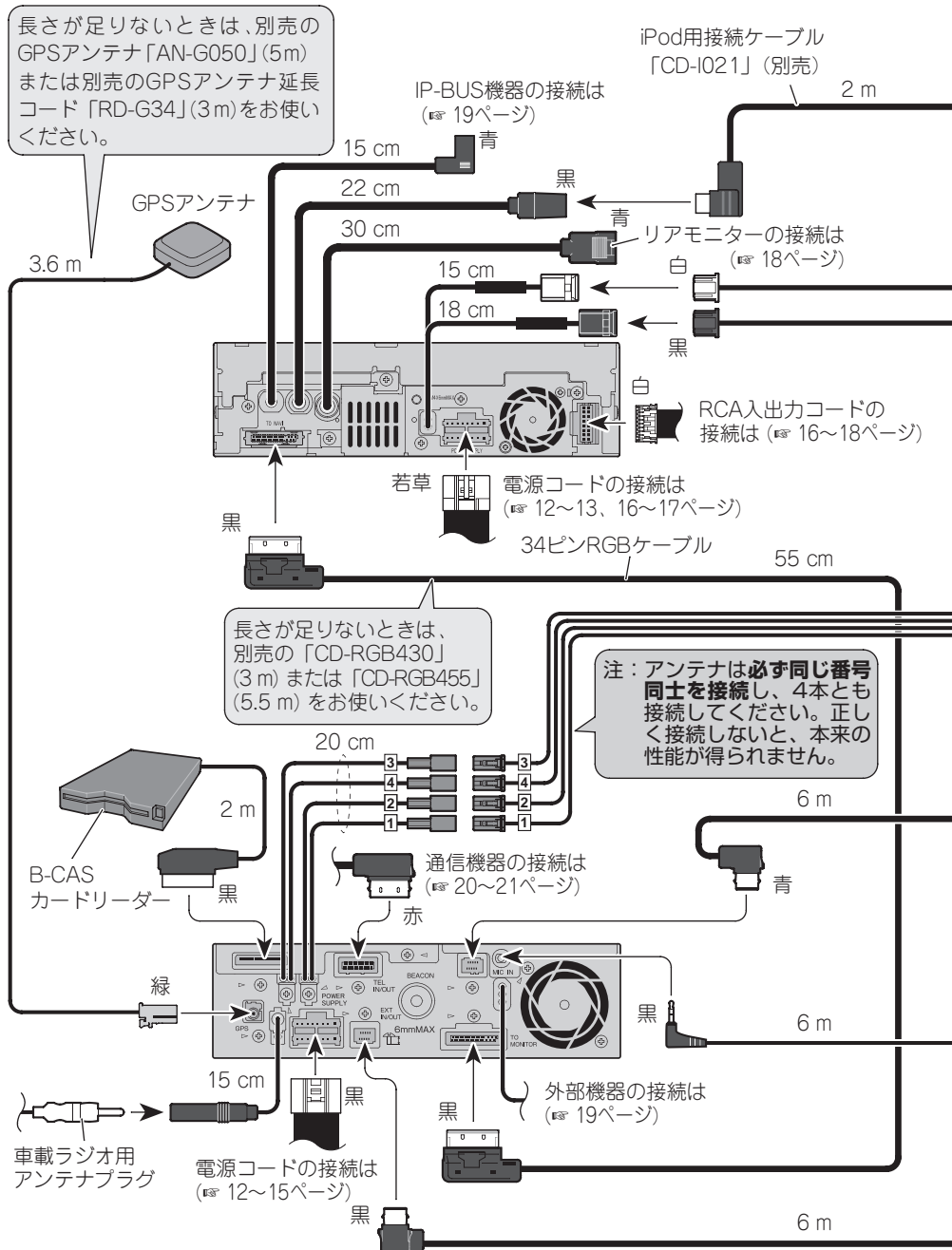
20 ナビゲーション接続端子

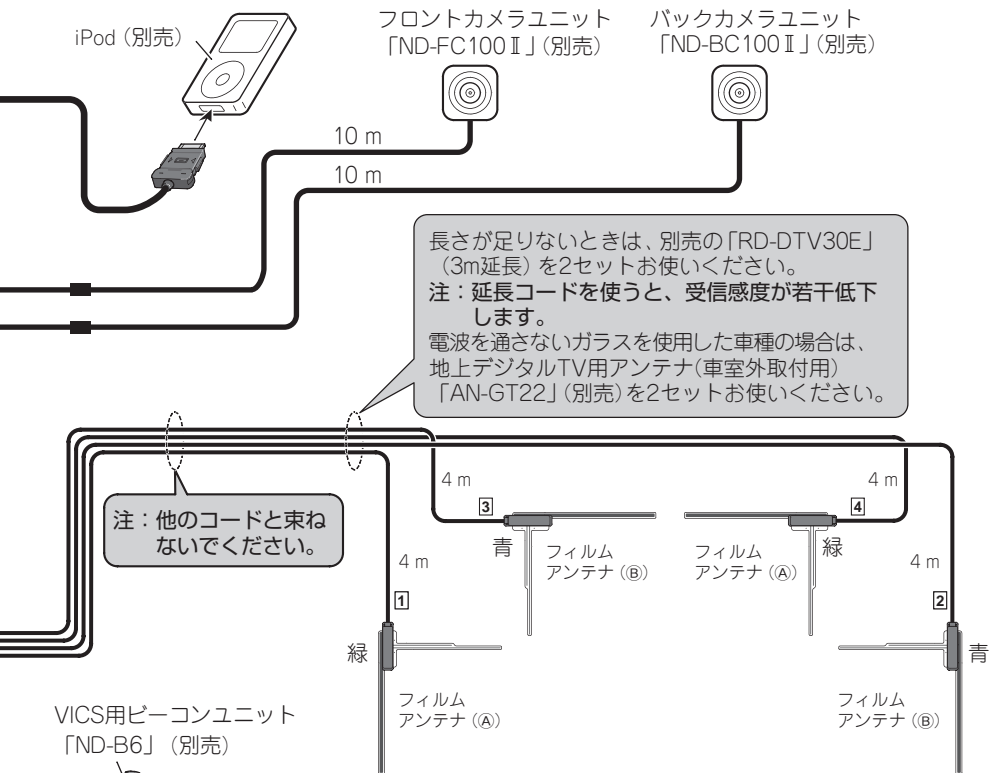
ナビゲーション本体の19B-CASカードリーダー接続端子に接続します。
(15 10～11ページ)

システムの接続

— 必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください —

長さが足りないときは、別売のGPSアンテナ「AN-G050」(5m) または別売のGPSアンテナ延長コード「RD-G34」(3m)をお使いください。





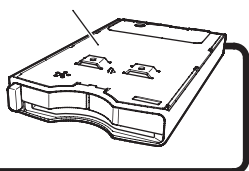
VICS用ビーコンユニット
「ND-B6」(別売)



音声認識用マイク



DSRCユニット
「ND-DSRC1」(別売)または
アンテナ分離型ETCユニット
「ND-ETC5」(別売)



メモ

- 本機にフロントカメラを接続したときは、車速信号入力線 (☞ 14~15ページ) の接続が必要です。
- 本機にバックカメラを接続したときは、バック信号入力線 (☞ 14~15ページ) の接続と、【バックカメラ切換極性】の設定 (☞ 49ページ) が必要です。
- 本機にRCA出力のカメラユニット (「ND-BC4」など) を接続するときは、別売のカメラ端子変換コネクタ「RD-C100」が必要です。また、【フロントカメラ】または【バックカメラ】の設定 (☞ 49ページ) を「ON」にする必要があります。
- 車種によっては、専用のバックカメラを接続してエンジンかけると、シフトレバーをバックに切り換えなくてもバックカメラの画像が表示されることがあります。その場合は、「NAVI/AV」を押してバックカメラの映像を解除し、システム設定の【バックカメラ切換極性】 (☞ 49ページ) で「LOW」を選んでください。

電源コードの接続 (1)

— 必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください —

ナビゲーション本体



電源コード
黒

注：ナビゲーション本体をシート下やトランクに取り付けるときは、別売のフリースペース電源配線キット「AD-F60」（6m）の電源コードを接続します。その際、アンテナコントロール（青）を6m延長する必要があります。この場合、本機に付属の電源コード（黒）は使用しません。

イルミ電源

車のライトをONにしたときに電源が供給される電源回路（時計の照明回路やスモールランプ回路など）に接続してください。

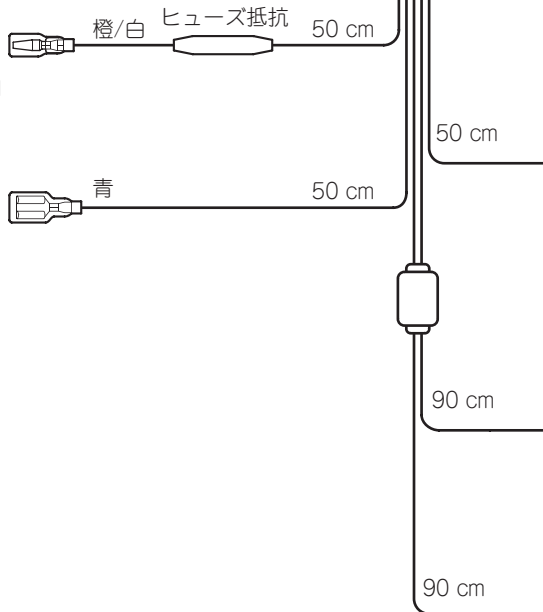
アンテナコントロール

アンテナをコントロールするために使用します。（12V DC、300mA以内でご使用ください）
下記以外の場合は、何も接続しないでください。

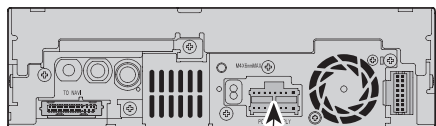
- オートアンテナ車の場合※：車側のオートアンテナのコントロール入力端子に接続してください。
- ルーフアンテナ車やガラスアンテナ車の場合：車側のアンテナプスターの電源入力端子に接続してください。

※ 車載のアンテナがオートアンテナの場合、エンジンスイッチのON（本機の電源ON）に連動してアンテナが上がります。屋内ではご注意ください。立体駐車場などでアンテナを下げるには、あらかじめカスタムキーに「アンテナコントロールをON/OFFする」を割り当てておく必要があります。

（『ナビゲーションブック』－「カスタムキー設定」）



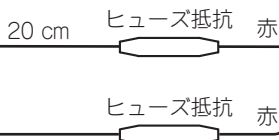
モニターユニット



電源コード
若草色

他のリード線の接続は
(14～17ページ)

注：赤、橙/白、黄リード線は車の
ヒューズユニットを通した後
の端子に接続してください。



アクセサリ電源

車のエンジンスイッチをACCポジションにしたときに電源が供給される電源回路に接続してください。

エンジンスイッチにACCポジションがない車には絶対に取り付けしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

注：電源リード線の、ヒューズおよびヒューズ抵抗から本体の間に、他の機器のリード線を接続しないでください。

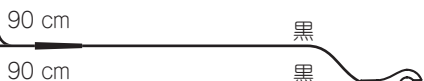
ヒューズ (10 A)



+バッテリー電源

車のエンジンスイッチのON/OFFに関係なく、常にバッテリーから電源が供給される電源回路に接続してください。

注：ヒューズを交換するときは、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。



アース

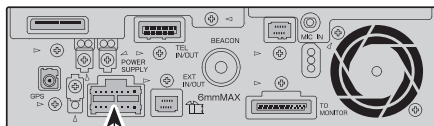
車のボディの金属部に確実に接続してください。ノイズ防止のため、できるだけナビゲーション本体の近くに接続してください。

注：製品の発煙・故障を防ぐために、黒リード線を必ずいちばん初めに接続してください。

電源コードの接続 (2)

— 必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください —

ナビゲーション本体



電源コード

黒

他のリード線の接続は
(12～13ページ)

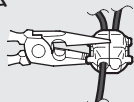
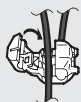
バック信号入力

この接続は車の前進 / 後退を判断するためのものです。バックランプのリード線の「シフトレバーをリバースの位置にしたときに電圧が変化するリード線」に接続してください。

※接続しないと前進 / 後退を正しく検知できないことがあるため、自車位置がずれる場合があります。

※別売のバックカメラユニットを利用する場合は必ず接続してください。接続しないとバックカメラ映像に切り換わりません。

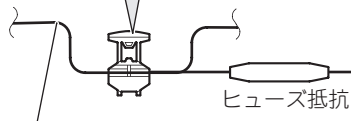
接続方法



バックランプのリード線をはさみ込む。



ラジオペンチで強くはさむ。



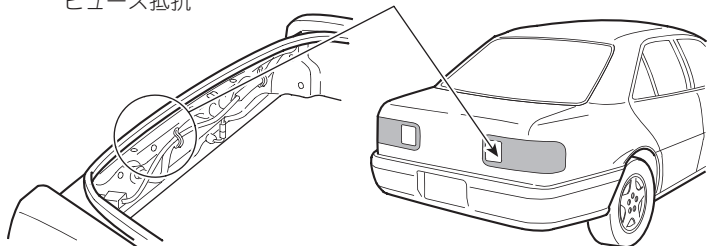
バックランプのリード線

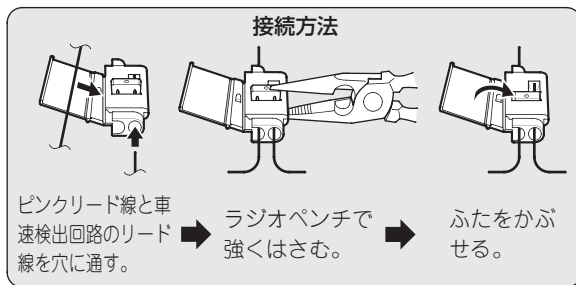
ヒューズ抵抗

紫/白 8 m

注：電源リード線の、ヒューズ抵抗から本体の間に、他の機器のリード線を接続しないでください。

バックランプ(シフトレバーがリバース [R] のときに点灯するランプ)の位置を確認し、トランク内から、バックランプのリード線を取り出します。





車のインジェクション
コンピューター

車速検出回路
のリード線

Uエレメントコネクター

ピンク 6 m

車速信号入力

車の走った距離を検出するために使用します。
必ず車の車速検出回路に接続してください。
(車の車速検出回路への接続が困難な場合は、
車速パルス発生機「ND-PG1」(別売)を接続
することもできます。)

※別売のフロントカメラユニットを利用する
場合は必ず接続してください。接続しないと
フロントカメラ映像に切り換わりません。

**注：必ず付属のUエレメントコネクターを
使用してください。指定以外の物を使用
すると接触不良の原因となります。**

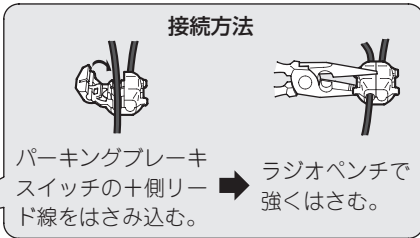
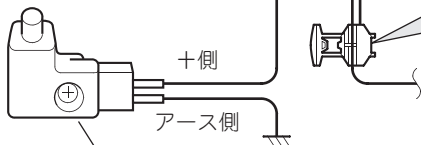
インジェクションコンピューターの車速検出回
路の位置は、車種によって異なります。詳しく
は、お買い上げの販売店にご相談ください。

パーキングブレーキスイッチ

車が停車していることを確認するために使用
します。必ずパーキングブレーキスイッチの
+側リード線に接続してください。

若草色 2.1 m

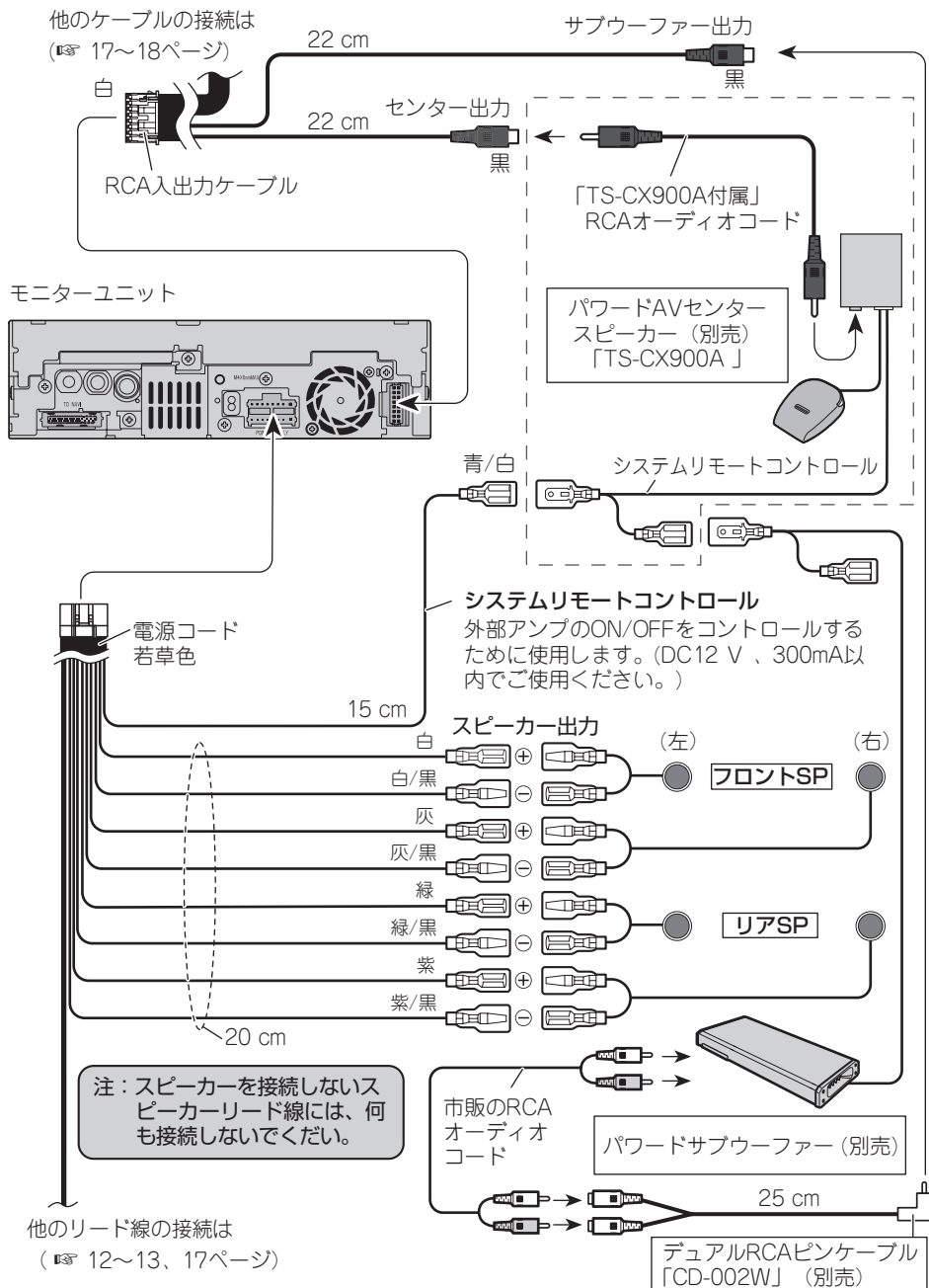
パーキングブレーキスイッチ



パーキングブレーキスイッチの位置は、
車種によって異なります。詳しくはお買
い上げの販売店にご相談ください。

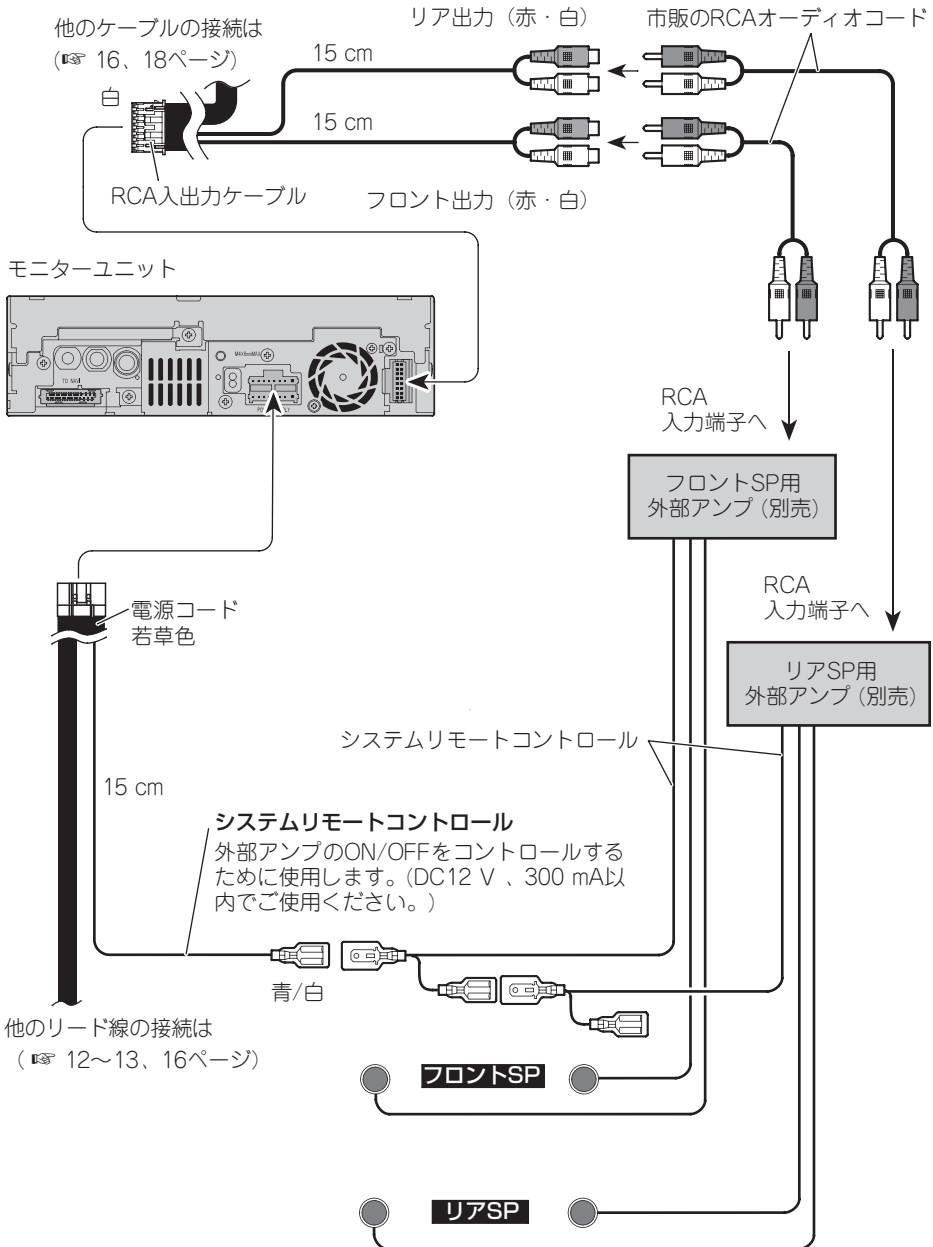
スピーカーの接続

— 必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください —



外部アンプの接続

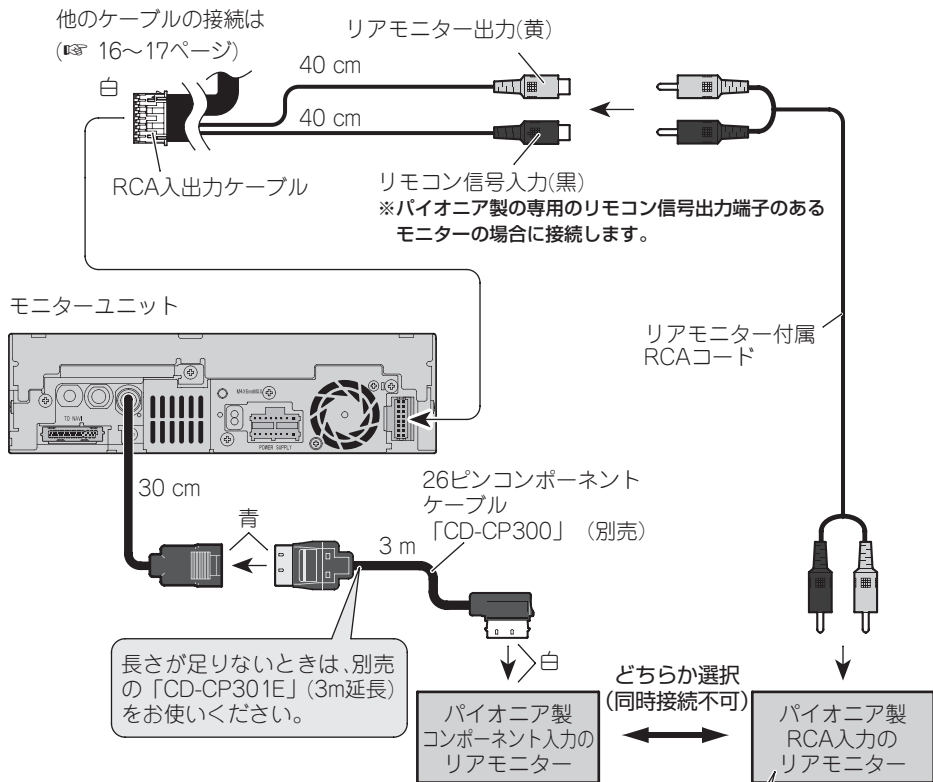
— 必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください —



接続のしかた

リアモニターの接続

— 必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください —



⚠ 注意

- 接続したリアモニターは、運転者が走行中に映像を見ることができない位置に設置してください。

本機に、RCA入力のリアモニターを接続したときは、「リアモニター出力設定」の「接続端子」を【RCA】に設定してください。(☞ 50ページ) 設定し忘れると、DVDなどの映像が表示されません。

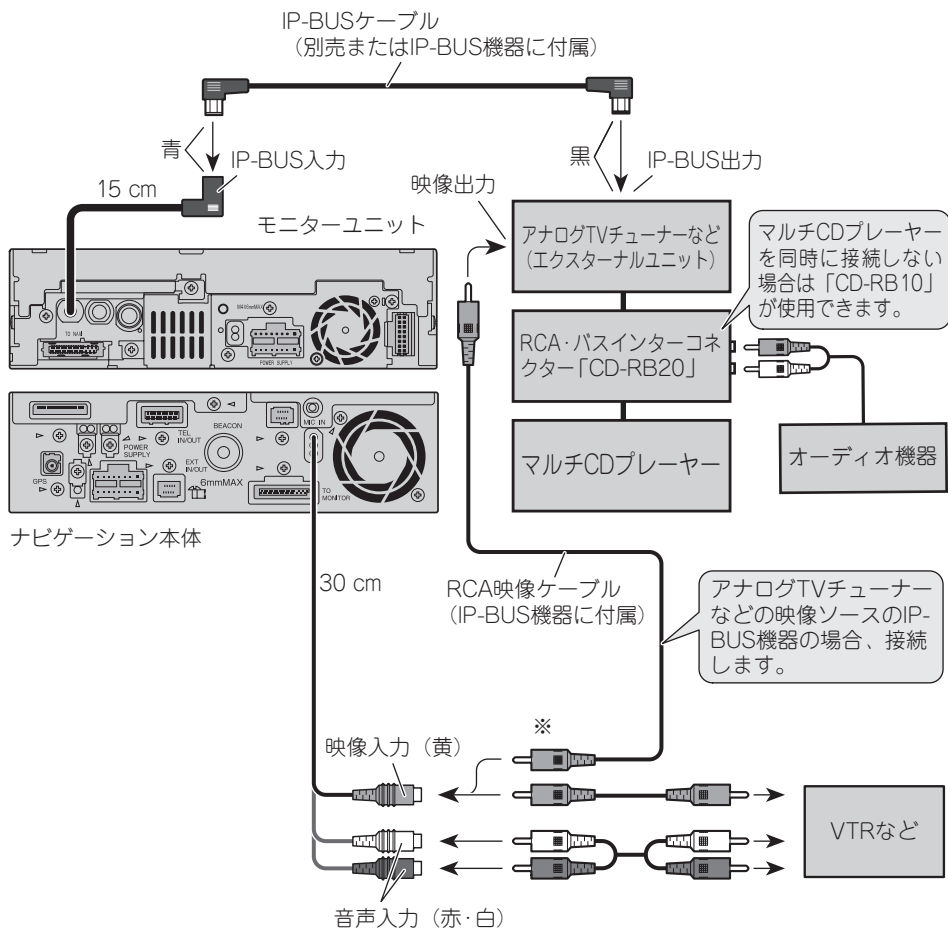
× モ

- 本機のコンポーネント出力端子およびRCA出力端子を同時に使用することはできません。リアモニターはどちらか片方に接続して、接続したモニターに応じて「リアモニター出力設定」(☞ 50ページ)を行ってください。
- パイオニア製「TVM-Wシリーズ」以外のモニターを接続した場合は画像が乱れる場合があります。
- 著作権保護された映像をビデオデッキなどで録画すると、著作権保護のための機能が働き、正しく録画できません。また、著作権保護の機能により、ビデオデッキを介してモニター出力した場合には、再生目的でも画質が劣化することがあります。これらは機器の問題ではありません。著作権保護された映像を視聴するときは、本機とモニターを直接接続してお楽しみください。



VTR・IP-BUS機器の接続

— 必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください —



接続のしかた

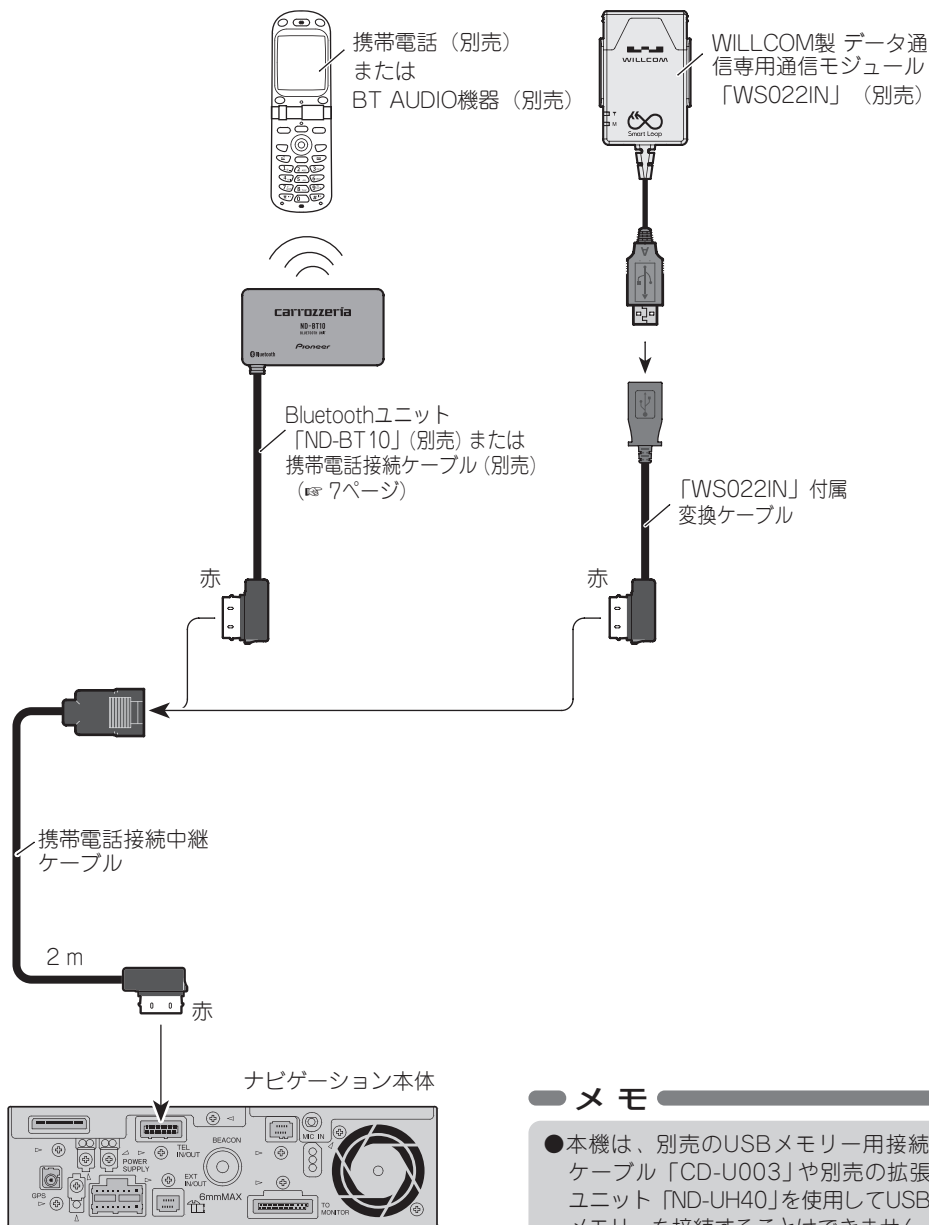
メモ

- VTRなどを接続するときは、エンジンスイッチをOFF（本機および接続する製品の電源をOFF）にしてから接続してください。
- 本機にVTRや映像ソースのエクスターナルユニットを接続したときは、「AV入力設定」の【VTR】の設定が必要です。（☞ 49ページ）
- 本機にRCA・バスインターコネクターを接続したときは、「AV入力設定」の【AUX2 (IP-BUS)】の設定が必要です。（☞ 50ページ）
- 本機にマルチCDプレーヤー以外のIP-BUS機器（エクスターナルユニット）は2台まで接続可能です。
- ※ 本機にVTRとアナログTVチューナーなど、2つ以上の映像機器を同時に接続する場合は、別売の映像切換器（AVセレクター「CD-VS33」など）が必要です。

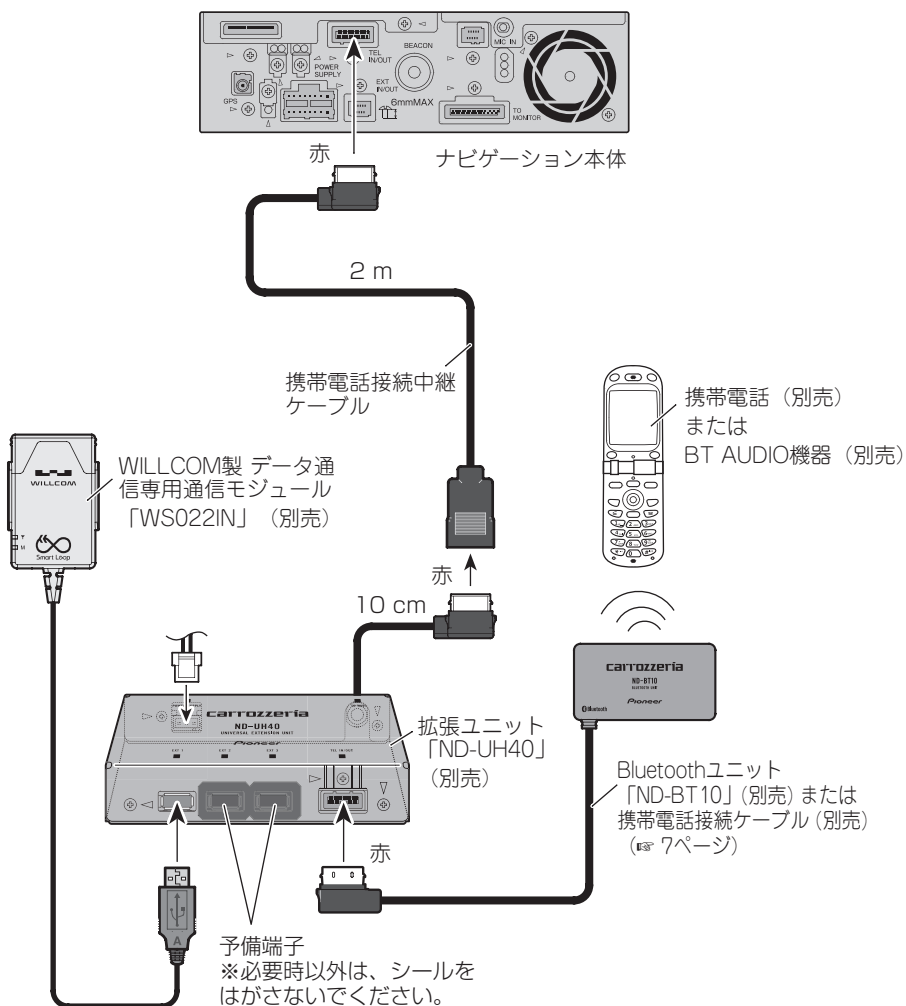
携帯電話・通信モジュールの接続

— 必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください —

携帯電話または通信モジュールのどちらか片方を接続する場合



携帯電話と通信モジュールを同時に接続する場合



取り付けの前に知ってほしいこと

ダッシュボード付近に本製品を取り付ける場合のご注意

下記の点にご注意ください。

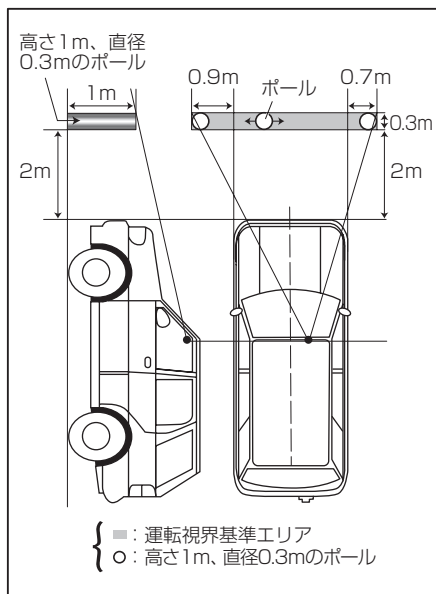
- ・前方視界を妨げない
- ・直前側方視界を妨げない
- ・エアバッグシステムの動作を妨げない
- ・ナビゲーションモニターに関しては運転中の視線移動が少ないように

前方視界および直前側方視界を妨げる位置に取り付けると、道路運送車両の保安基準*に適合せず車検に通らなかったり整備不良の対象となる場合があります。

*保安基準とは、昭和26年7月28日施行 運輸省（現・国土交通省）令第67号道路運送車両の保安基準における第21条及び第44条第5項の告示で定める基準をいいます。

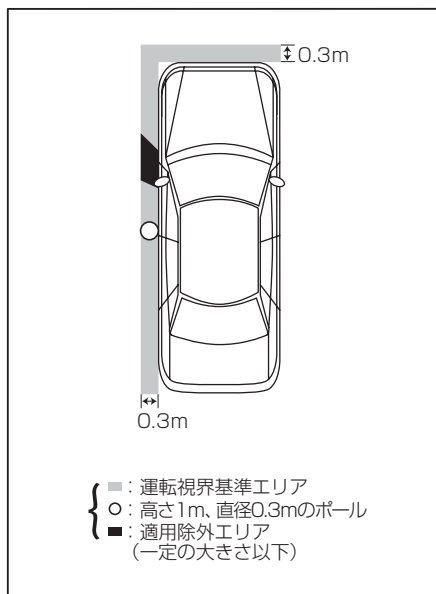
前方視界に関して

運転者が通常の運転状態における視点において、下図のポールが直接確認できるように取り付けてください。



直前側方視界に関して

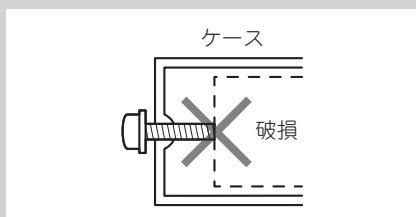
運転者が通常の運転状態における視点において、下図のポールが直接またはミラーやカメラ画像で確認できるように取り付けてください。



注) いずれの基準も左ハンドル車の場合は左右逆となります。

取り付け上のご注意

- 必ず本機に付属のネジを使用して、指定どおりに取り付けてください。車種別取付キットに付属のネジや純正カーステレオを取り付けていたネジは使用できません。本機に付属以外のネジを使用すると、故障の原因となります。



取り付けのポイント

取り付け、固定する前に

- まず仮接続を行い、本機が正常に動作することを確認します。このときアンテナ類などは、受信状態の良い位置を確かめてから取り付けを行ってください。正常に動作しない場合は、接続に間違いがないか、もう一度チェックしてください。

取付キットを別売しています

- 車種や年式によっては、別売のパイオニア製取付キットを使用しないと、取り付けられないこともあります。当社では車種別専用取付キットを用意しておりますので、販売店にご相談ください。
- 日産車に取り付ける場合は、車種や年式によって別売の日産車用取付化粧パネル「AD-N980」が必要になることがありますので、販売店にご相談ください。
- ナビゲーション本体をシート下やトランクに取り付ける場合は、別売のフリースペース電源配線キット「AD-F60」(6m) (30ページ) および34ピンRGBケーブル「CD-RGB430」(3m)または「CD-RGB455」(5.5m)をお使いください。

粘着テープを貼り付ける前に

- 両面テープなどを貼り付けるところは、汚れをよくふきとってください。

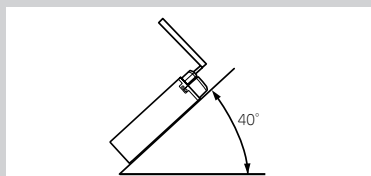
ノイズ防止のために

- フィルムアンテナの取り付けのしかたによっては、ラジオ放送に雑音が入る場合があります。フィルムアンテナは、フィルムアンテナの取り付け(38ページ)の説明に従って正しく取り付けてください。
- ノイズ防止のため、次のものはナビゲーション本体やモニターユニット、B-CASカードリーダー、他のケーブル類、コード類からできるだけ離して配置してください。
 - * フィルムアンテナおよびそのアンテナコード
 - * FM/AMアンテナおよびそのアンテナコード
 - * GPSアンテナおよびそのアンテナコード
 - * ビーコン受信機およびそのアンテナコードそれぞれのアンテナコードどうしもできるだけ離してください。一緒に束ねたり、重ねたり、交差させたりしないでください。アンテナやアンテナコードにノイズが飛び込むと受信感が悪くなります。

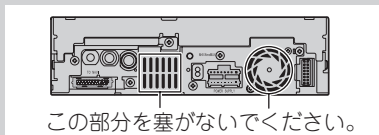
モニターユニットの取り付け

取り付け上のご注意

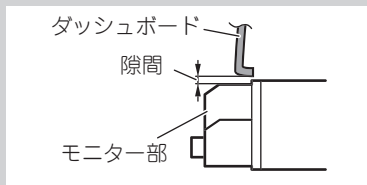
- 本機の性能を十分に発揮するために、水平に対して40度以内の角度で取り付けてください。



- 必ず本機に付属のネジを使用して、指定どおりに取り付けてください。本機に付属のネジ以外を使用すると、故障の原因となったり、モニター部が立ち上がらなくなることがあります。
- 車種によっては、モニター部が立ち上がったときに、車のエアコンなどの操作ボタンを押してしまうことがあります。このようなときは販売店にご相談ください。
- 放熱を妨げないために、下図の部分を塞がないように配置してください。

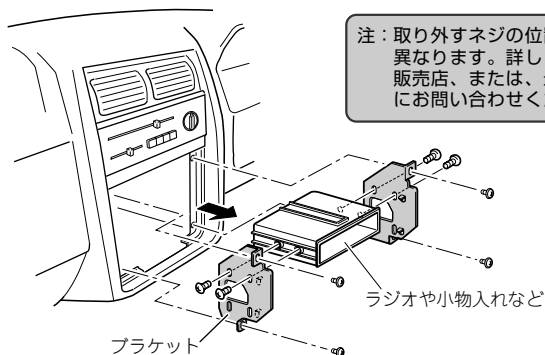


- 本機とカーステレオを重ねて取り付けるときは、本機を上にして取り付けてください。本機を下に取り付けると、モニター部が立ち上がったときに、カーステレオの操作ボタンを隠してしまい、カーステレオの操作の妨げになります。
- 車種によっては、モニター部がコンソールやダッシュボードに当たってしまい、モニター部の角度を上向きに調節できない場合があります。
- エアバッグなどの安全装置装着車の場合は、安全装置の作動に支障のないように取り付けてください。
- ダッシュボードとモニター部の間に、十分な隙間があることを確認してください。隙間がないと、モニターの開閉時に、モニターとダッシュボードが干渉して、開閉動作の妨げとなります。



1 車両のラジオ、小物入れなどを取り外す

ラジオ、小物入れなどを取り外し、それらを止めているブラケットを取り外します。そのブラケットを使用して、本機を取り付けます。



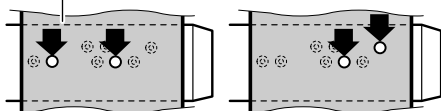
注：取り外すネジの位置などは車種により異なります。詳しくは、お買い上げの販売店、または、最寄りのディーラーにお問い合わせください。

2 ネジ止めする位置を確認する

ブラケットを本機に重ねて、ネジ穴が合う位置を確認してください。
 ブラケットのネジ穴は次のタイプがあります。

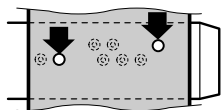
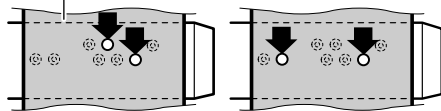
トヨタ車の場合

トヨタ車ブラケット



日産車の場合

日産車ブラケット



■ 取り付けスペースの奥行きが少ない車に取り付ける場合

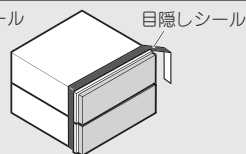
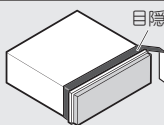
本機の奥行きは、コーステレオよりもやや長くできています。通常のネジ穴の位置で
 コンソールに収納できない場合は、使用するネジ穴を後側にずらして取り付ける事も可能です。

例：日産車の場合

	タイプ 1	タイプ 2
	日産車ブラケット	
通常のネジ穴を使用する場合		
後側のネジ穴を使用する場合		

取り付けスペースの奥行きが少ないなどの理由で「後側のネジ穴を使用する場合」には、加工するなどして、必ず片側2カ所ずつネジ止めしてください。片側1カ所止めの場合、音飛びや現在地を正しく表示できなくなるなどの原因となります。また、車種によっては窓口パネルの加工なども必要となりますので、商品の取り付けにあたっては、お買い上げの販売店にご相談ください。

ネジ穴を後方にずらして取り付けの場合は、付属の目隠しシールを本機前面に貼り付けます。その際、目隠しシールは必要に応じて切ってご使用ください。

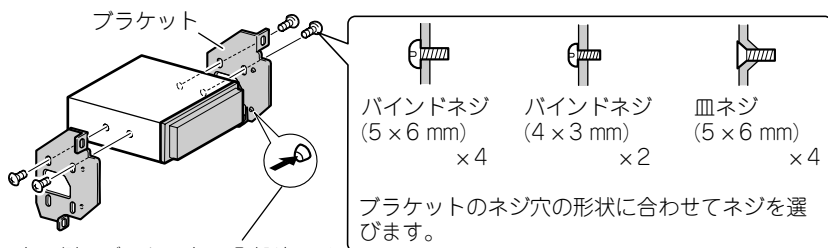


モニターユニットの取り付け

つづき

3 ブラケットを 付属のネジで取り付ける

左側、右側、それぞれ2カ所ずつ、付属のネジでネジ止めして、元どおり車に取り付けます。



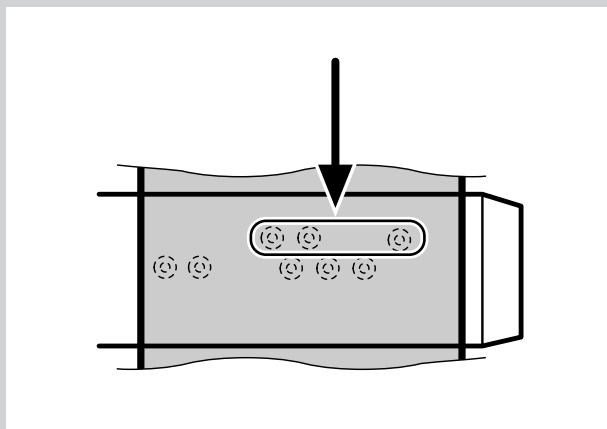
車両側のブラケットの凸部やツメがじゃまになり、浮いてしまう場合は、それらをハンマーなどでつぶす必要があります。

***作業の際には安全に十分ご注意ください。**

**注：付属のネジ以外は使用しないでください。
付属のネジよりも長いネジを使用すると、
本機内部の部品をいためることがあります。**

ブラケット取り付け時のご注意

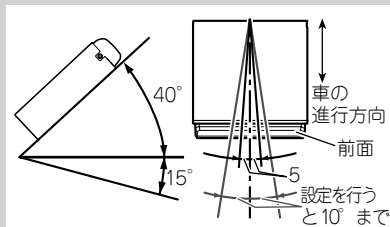
左側、右側、どちらも下記のネジ穴は付属のバインドネジ (4 × 3 mm) を使用してください。



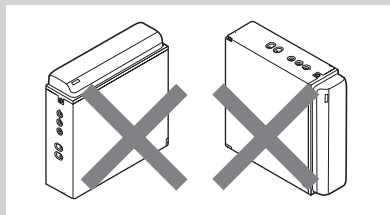
ナビゲーション本体の取り付け

取り付け上のご注意

- ナビゲーション本体にはジャイロセンサーが内蔵されています。本機の性能を十分に発揮するために、上下の傾きはできるだけ水平に取り付けてください。傾けて取り付ける場合は、水平に対して上の傾き40度以内、下の傾き15度以内の角度で取り付けてください。左右の傾きは車の進行方向に対してナビゲーション本体の前面が5度以内の角度で取り付けてください。5度以上10度以内のコンソールに取り付ける場合は、「取付角度の設定を行う」(P.48ページ)で向き設定してください。



- 縦置きや、裏返して取り付けることはできません。



- しっかりと固定できる場所を選んで取り付けてください。しっかりと固定されていないと、現在地を正しく表示できなくなります。

- 放熱を妨げないために、下図の部分のを塞がないように配置してください。



この部分を塞がないでください。

- 必ず本機に付属のネジを使用して、指定どおりに取り付けてください。本機に付属のネジ以外を使用すると、故障の原因となります。
- 次のような場所には絶対に取り付けしないでください。高温により故障するおそれがあります。
 - * ダッシュボードやリアトレイの上のように、直射日光の当たる場所。
 - * ヒーターの吹き出し口の近く。
- ドア近くの雨水がかかりやすい場所には取り付けしないでください。
- ヒーターダクト上など、車の振動で動く場所には絶対に取り付けしないでください。
- 荷物などが当たる場所には取り付けしないでください。強い衝撃が加わると、現在地を正しく表示できなくなります。
- スペアタイヤ、ジャッキ、工具などの出し入れの邪魔にならない場所を選んで取り付けてください。
- ナビゲーション本体を設置する床面の下部に、マフラー等の高温になるものがあり、床面が熱くなるような場合、保護回路が働き動作停止することがあります。このような場所には取り付けしないでください。

取り付けのポイント

取り付け方法には次の2種類があります。

- コンソールに取り付ける

付属のネジを使用して、車のコンソールなどのオーディオスペースに取り付けます。(P.28ページ)

- 床面や取付ボードに取り付ける

別売のフリースペース電源配線キット「AD-F60」を使用して、床や取付ボードに取り付けます。(P.30ページ)

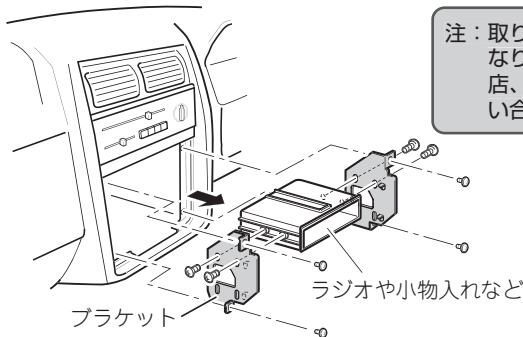
ナビゲーション本体の取り付け

つづき

コンソールに取り付ける場合

1 車両のラジオ、小物入れなどを取り外す

ラジオ、小物入れなどを取り外し、それらを止めているブラケットを取り外します。そのブラケットを使用して、本機を取り付けます。



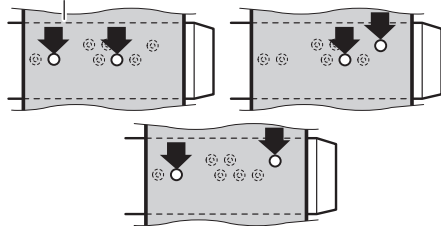
注：取り外すネジの位置などは車種により異なります。詳しくは、お買い上げの販売店、または、最寄りのディーラーにお問い合わせください。

2 ネジ止めする位置を確認する

ブラケットを本機に重ねて、ネジ穴が合う位置を確認してください。ブラケットのネジ穴は次のタイプがあります。

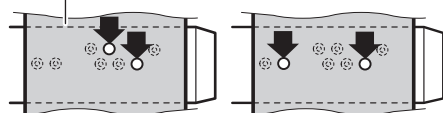
トヨタ車の場合

トヨタ車ブラケット



日産車の場合

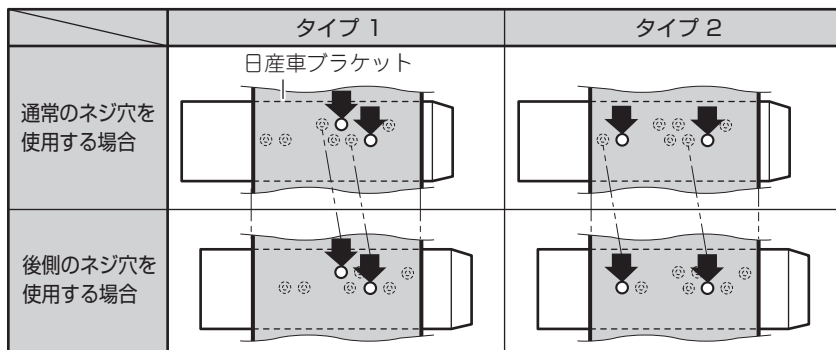
日産車ブラケット



■ 取り付けスペースの奥行きが少ない車に取り付ける場合

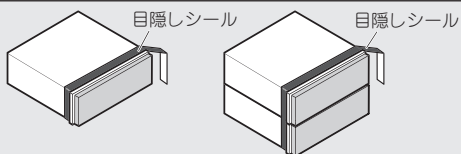
本機の奥行きは、コーステレオよりもやや長くできています。通常のネジ穴の位置でコンソールに収納できない場合は、使用するネジ穴を後側にずらして取り付ける事も可能です。

例：日産車の場合



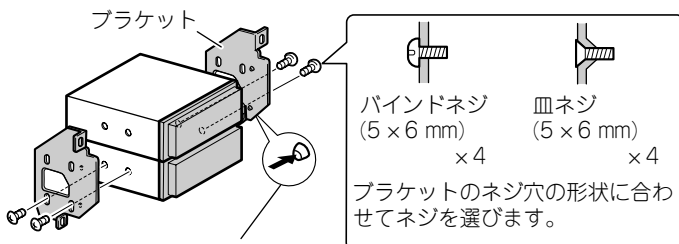
取り付けスペースの奥行きが少ないなどの理由で「後側のネジ穴を使用する場合」には、加工するなどして、必ず片側2カ所ずつネジ止めしてください。片側1カ所止めの場合、音飛びや現在地を正しく表示できなくなるなどの原因となります。また、車種によっては窓パネルの加工なども必要となりますので、商品の取り付けにあたっては、お買い上げの販売店にご相談ください。

ネジ穴を後方にずらして取り付けた場合は、付属の目隠しシールを本機前面に貼り付けます。その際、目隠しシールは必要に応じて切ってご使用ください。



3 ブラケットを 付属のネジで取り付ける

左側、右側、それぞれ2カ所ずつ、付属のネジでネジ止めして、元どおり車に取り付けます。



車両側のブラケットの凸部やツメがじゃまになり、浮いてしまう場合は、それらをハンマーなどでつぶす必要があります。

*作業の際には安全に十分ご注意ください。

注：付属のネジ以外は使用しないでください。付属のネジよりも長いネジを使用すると、本機内部の部品をいためることがあります。

ナビゲーション本体の取り付け

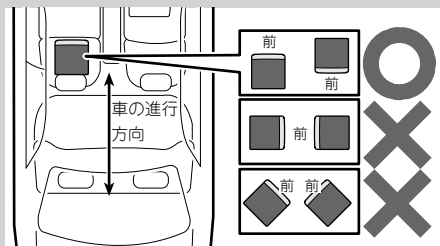
つづき

別売の「AD-F60」を使用して床や取付ボードに取り付ける場合

床や取付ボードに取り付ける場合は、別売のフリースペース電源配線キット「AD-F60」を使用します。

取り付ける向きについてのご注意

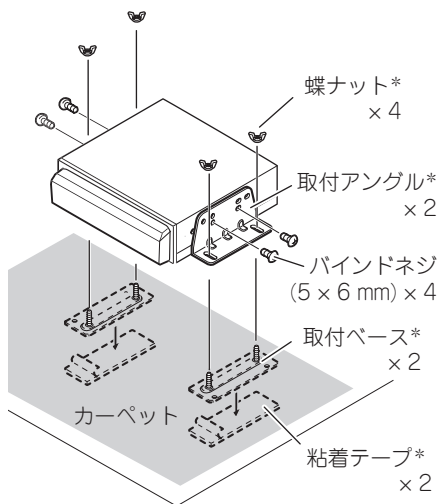
- ナビゲーション本体の前面が、車の進行方向に対して直角になるように取り付けてください。斜めまたは平行には取り付けないでください。車の進行方向に対して斜めまたは平行に取り付けると、現在地を正しく表示できなくなります。



1 「AD-F60」を使用して、ナビゲーション本体を固定する

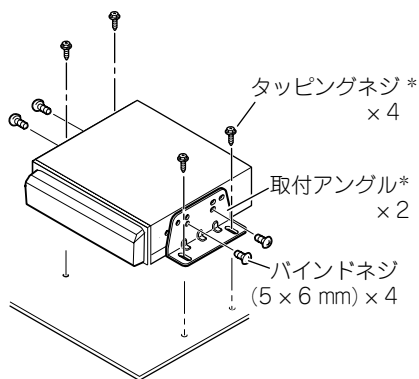
固定方法については、「AD-F60」の説明書をご覧ください。

床に取り付ける場合



*「AD-F60」付属品

取付ボードに取り付ける場合



*「AD-F60」付属品

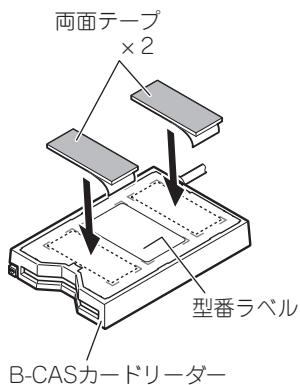
B-CASカードリーダーの取り付け

取り付け上のご注意

- 次のような場所には絶対に取り付けしないでください。高温により故障するおそれがあります。
 - * ダッシュボードやリアトレイの上のように、直射日光の当たる場所。
 - * ヒーターの吹き出し口の近く。
- ドア近くの雨水がかかりやすい場所には取り付けしないでください。
- スペアタイヤボードなど、車の振動で動く場所には絶対に取り付けしないでください。
- スペアタイヤ、ジャッキ、工具などの出し入れの邪魔にならない場所を選んで取り付けてください。
- 床面の下部に、マフラー等の高温になるものがあり、床面が熱くなるような場所には取り付けしないでください。
- フロントシート下に取り付けるときは、シートのスライドに支障がないように取り付けてください。

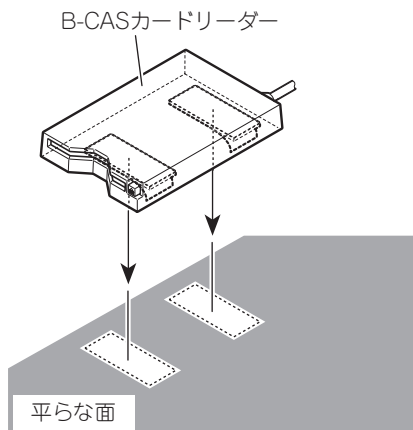
1 両面テープの片方の剥離紙をはがし、底面に貼り付ける

両面テープを貼り付ける前に、汚れをよく拭きとってください。



* 型番ラベルには、B-CASカードリーダーの型番、製造年月が記載されています。両面テープを貼るときは、型番ラベルを隠さないように貼り付けてください。

2 もう片方の剥離紙をはがし、取り付け場所に貼り付ける




GPSアンテナの取り付け

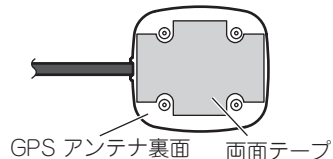
取り付け上のご注意

- 付属のGPSアンテナは車室内取付専用です。電波を通さないガラスを使用した車種の場合は、別売のGPSアンテナ（車室外取付用）「AN-G050」（5m）をお使いください。
- GPSアンテナは、ワイパーやピラーなどで遮られない場所に水平に取り付けてください。
- GPSアンテナを塗装しないでください。アンテナの性能が落ちる場合があります。
- GPSアンテナの取り付けには、必ず付属の金属シートを使用してください。使用しないと、十分な受信感度が得られなくなります。
- 付属の金属シートは、切って小さくしないでください。十分な受信感度が得られなくなります。
- GPSアンテナは、ナビゲーション本体から30cm以上離して設置してください。また、余ったGPSアンテナコードをまとめて置くときも、ナビゲーション本体から30cm以上離して置いてください。近くに設置すると、受信感度が低下する場合があります。
- GPSアンテナを取り外すときは、アンテナコードを引っ張らないでください。コードが抜けてしまうことがあります。

取付例（ダッシュボード上）

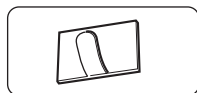
車室内のなるべく水平な場所でアンテナがウィンドウの外に向く場所に金属シートを貼り付け、GPSアンテナを金属シートの上に貼り付けます。アンテナの取り付け位置は[取付け状態]画面（ 46ページ）を参考に、十分に受信できる位置に取り付けてください。

GPS アンテナ裏面に、付属の両面テープを下図のように貼ってください。

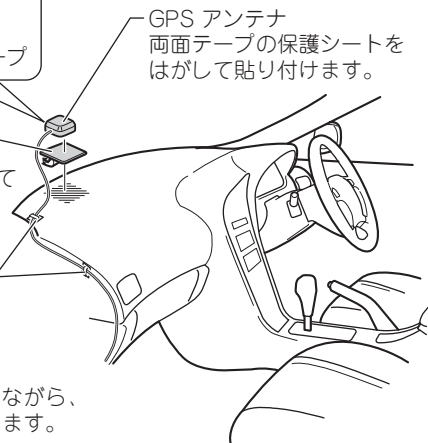


GPS アンテナ
両面テープの保護シートをはがして貼り付けます。

金属シート
必ず使用してください。
裏面の保護シートをはがして
貼り付けます。



クランパー×3
クランパーで要所を固定しながら、
アンテナコードを引き回します。



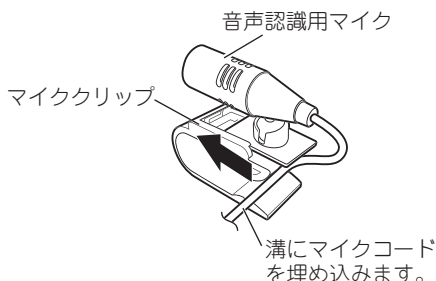
音声認識用マイクの取り付け

取り付け上のご注意

ハンズフリー時に明瞭な音質を得るために、マイクはできるだけドライバーの近くに取り付けてください。また、エコー(反響音)を軽減する為なるべく車のスピーカーから離れた位置に設置してください。

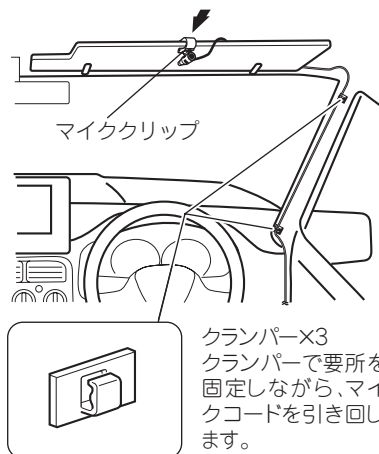
サンバイザーにはさんで取り付ける場合

1 マイククリップにマイクを取り付ける



2 サンバイザーにマイククリップを取り付ける

サンバイザーを上げた状態で取り付けます。サンバイザーを下げると、正しく音声認識されません。



ステアリングポストに取り付ける場合

1 ステアリングポストにマイクを取り付ける

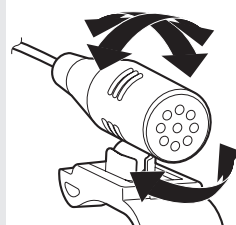


クランパー×3
クランパーで要所を固定しながら、運転操作に支障がないようにマイクコードを引き回します。



マイク角度の調節のしかた

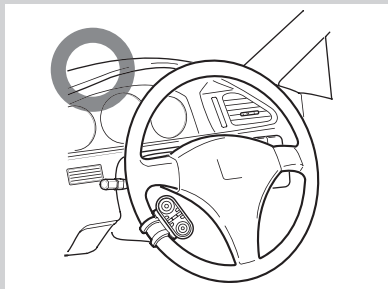
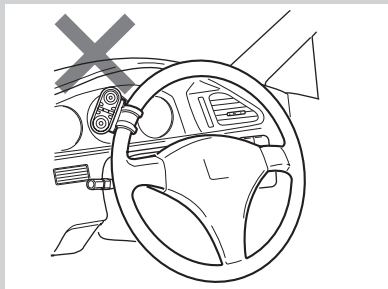
マイクの角度は、マイククリップの可動部を矢印の方向に動かして調節します。



リモコンの取り付け

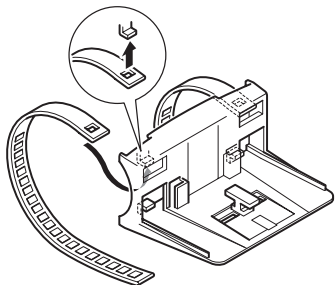
取り付け上のご注意

- リモコンは必ず固定しておいてください。固定しないで放置しておくと、リモコンが転がり、ブレーキペダルの下に入り込むと大変危険です。
- エアバッグなどの車の安全装置が働いたときに、その動作の妨げになる場所には絶対に取り付けないでください。
- 車のメーター類の、視認の妨げになる場所には取り付けないでください。
- 取り付ける位置や向きによっては、リモコンの信号がリモコン受光部にとどかない場合があります。固定する前に、取り付ける位置で、動作確認を行ってください。
- ハンドルに取り付けるときは、ハンドルの左または右側のリモコン受光部に近い方（右ハンドル車の場合はハンドルの左側、左ハンドル車の場合は右側）に取り付けてください。逆側に取り付けると、ステアリングリモコンの信号がリモコン受光部にとどかないため、動作しないことがあります。
- ハンドルに取り付けるときは、付属のベルトでしっかりと固定してください。しっかり固定しないと、運転操作の邪魔になり、交通事故の原因となります。
- ハンドルに取り付けるときは、ハンドルの外側に取り付けしないでください。運転操作の邪魔になり、交通事故の原因となります。必ずハンドルの内側に取り付けてください。

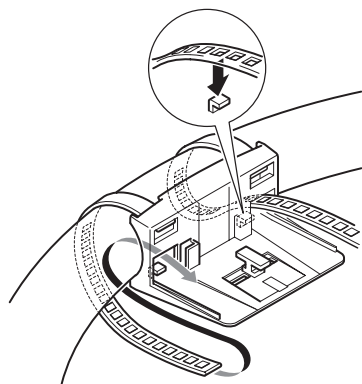


ハンドルに取り付ける場合

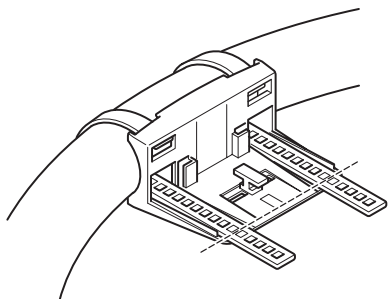
- 1** ホルダーにベルトを取り付ける



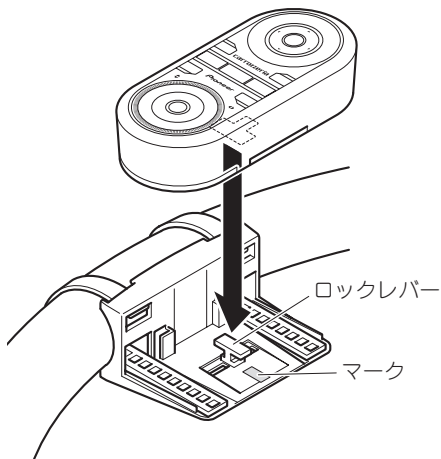
- 2** ハンドルにベルトを巻き付け、ホルダーを固定する



- 3** ベルトの余りを切り取る



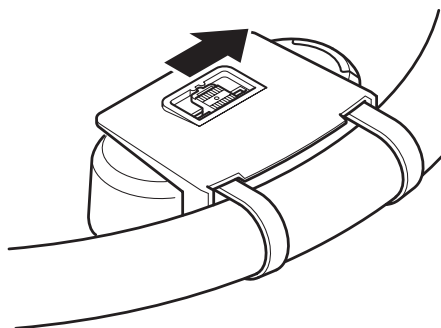
- 4** ステアリングリモコンを取り付ける



メモ

- 取り付け前に、ロックレバーがマークの位置にあることを確認してください。

- 5** 裏側のロックレバーを“カチッ”と音がするまでスライドしてリモコンを固定する



メモ

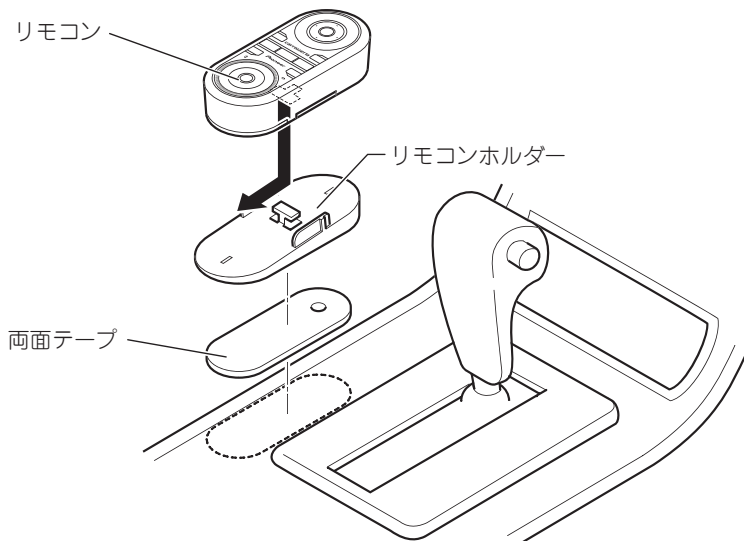
- 上図は右ハンドル車の例です。左ハンドル車に取り付ける場合は左右逆に取り付けてください。

リモコンの取り付け

つづき

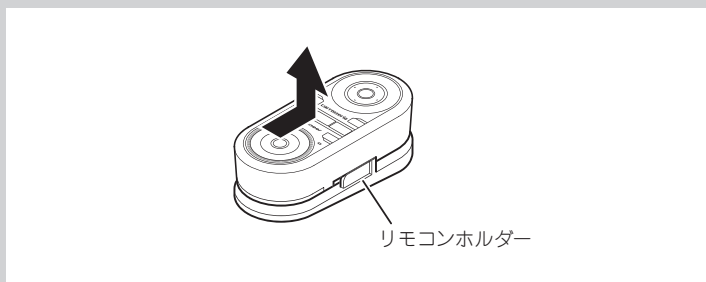
両面テープでコンソールに取り付ける場合

付属の両面テープを使用して、リモコンホルダーを貼り付けます。



リモコンの取り外し方

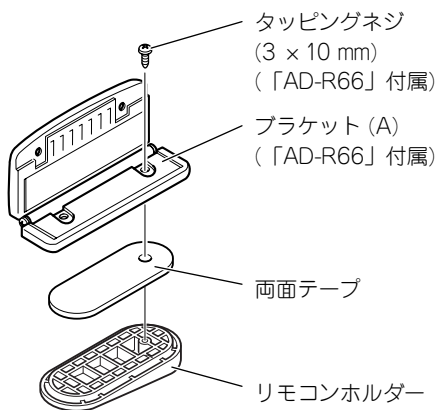
リモコンをリモコンホルダーから取り外すときは、図のようにスライドさせてから取り外します。



別売の「AD-R66」を使用してコンソールに取り付ける場合

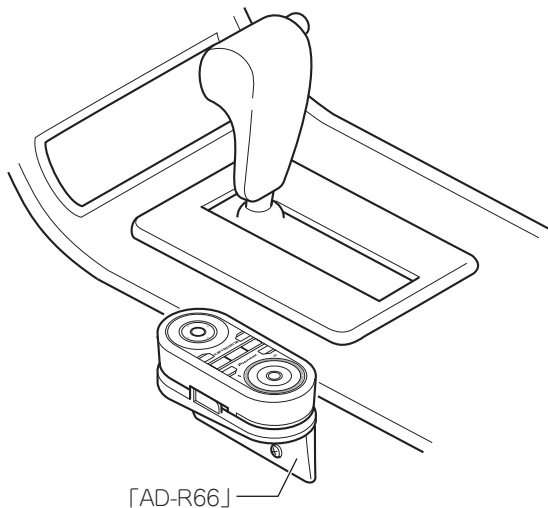
センターコンソールの幅が狭く、センターコンソール上にリモコンの取り付けスペースがない場合は、別売のメインコントローラーアタッチメント「AD-R66」を使用して取り付けます。

1 「AD-R66」に付属のブラケット (A) に リモコンホルダーを取り付ける



2 「AD-R66」を 車に取り付ける

「AD-R66」の『取付説明書』を参照して、車に取り付けます。



フィルムアンテナの取り付け

取り付け上のご注意

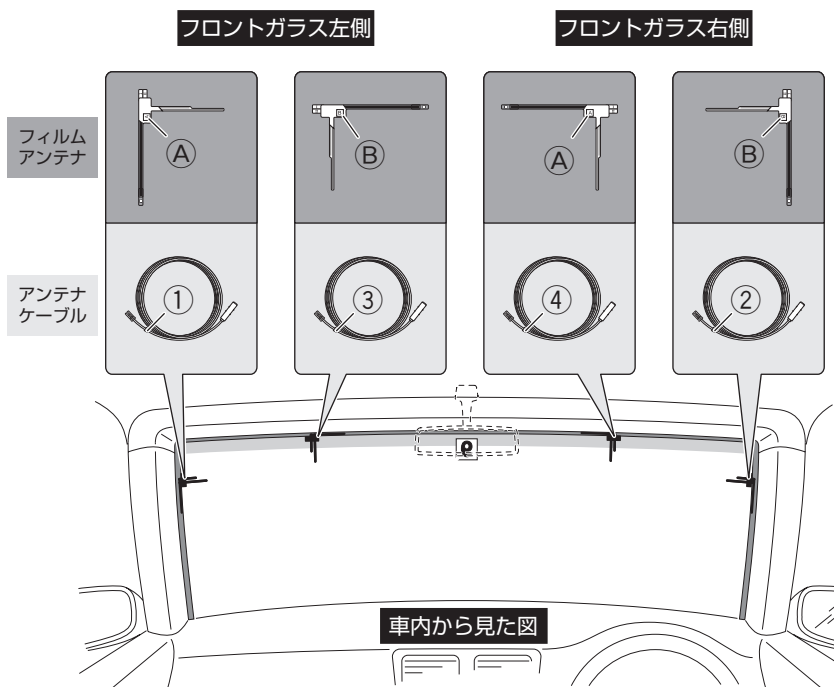
- 保安基準*に適合させるため、本書をよくお読みになり、正しく貼り付けてください。
*保安基準とは、道路運送車両の保安基準第29条第4項第6号に対する、平成15年9月26日付の運輸省（現、国土交通省）令第95号をいいます。
- アンテナは、フロントウィンドウ貼り付け専用です。フロントウィンドウ以外には取り付けしないでください。
- 熱線やプリントアンテナ上には貼り付けしないでください。ショートや発熱、性能劣化の原因になります。
- ピラーにフロントエアバッグを搭載している車両には、取り付けることができません。
- 必ずフロントウィンドウの指定の位置・寸法内に貼り付けてください。
- 車室内に取り付けるアンテナは、エアコン用モーターなどから出るノイズにより、テレビの映りが悪くなる場合がありますが、故障ではありません。
- 車種によって、取り付けられない場合があります。販売店に相談してください。
- 熱線反射ガラスや断熱ガラス、電波不透過ガラスなど、電波を通さないガラスを使用した車種の場合には、受信感度が極端に低下します。お買い上げの販売店に確認してください。
- 必ず車内の取り付け場所に、市販のテープなどでいったんフィルムアンテナとアンテナケーブルを仮止めして、エレメントとアンプが貼り付けられることを確認してください。
- フィルムアンテナのフィルムやアンプの裏シートをはがした後は、給電端子などに手を触れないでください。静電気による故障や汗や汚れなどで接触不良の原因となります。
- フィルムアンテナは折り曲げないように、取り扱いに注意してください。
- 作業場所は、風が無く、空気中にゴミ、ホコリなどが無い場所を選んでください。
- 気温が低いときやガラスがくもってしまう場合は、接着力の低下を防ぐため、車内ヒーターやデフロスタースイッチをONにしてウィンドウを暖めておいてください。
- 他のアンテナから10cm以上離して取り付けてください。
- 指定の位置や寸法内に取り付けられないことがあります。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- アンテナの余りをまとめる時は十分な曲げ角度（半径15mm以上）を確保してください。

他のフィルムアンテナとの干渉を考慮して貼り付け位置を決めてください。

一度貼り付けると、粘着力が弱くなるため貼り直しできません。
必ずアンテナケーブルおよびフィルムアンテナを仮止めし、アンテナケーブルの引き直しなどを十分に検討してから貼り付けてください。

貼り付け位置について

フィルムアンテナはA、Bの2種類、フィルムアンテナケーブルは①、②、③、④の4種類があり、組み合わせるフィルムアンテナとアンテナケーブルは決められています。それぞれを組み合わせ合わせて下記の位置に張り付けてください。



取り付けかた

フィルムアンテナの取り付け

つづき

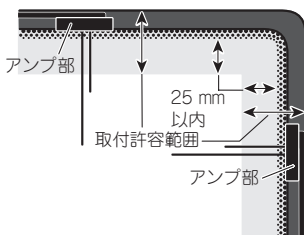
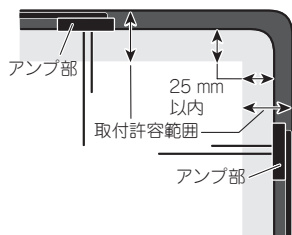
貼り付け位置について (つづき)

⚠️ 必ずお守りください

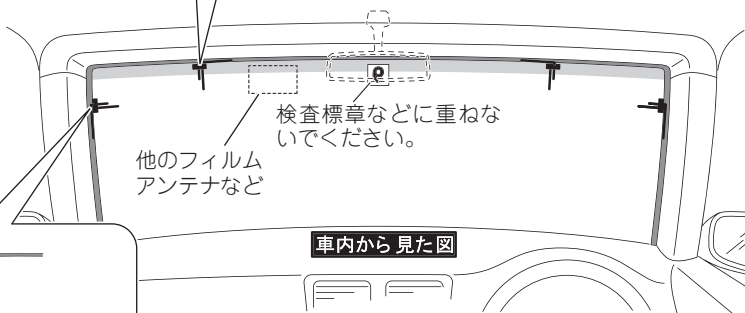
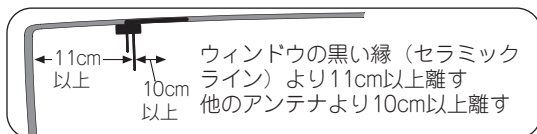
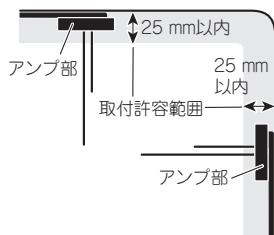
運転に安全な視野を確保し、性能を十分に発揮させるために、必ず「アンブ部の貼付許容範囲」の位置に貼り付けてください。許容範囲外に貼り付けると道路運送車両の保安基準に適合せず、車検に通らなかったり、整備不良の対象となります。

アンブ部の貼付許容範囲

■ セラミックライン有り



■ セラミックライン無し



取り付け推奨範囲について

- フロントガラスのウィンドウの黒い縁（セラミックライン）より11 cm以上離す。
- 他のアンテナより10 cm以上離す。
- 同梱のフィルムアンテナどうしは1cm以上離す。

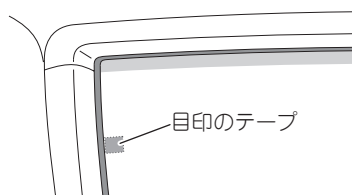
フィルムアンテナを貼り付ける

メモ

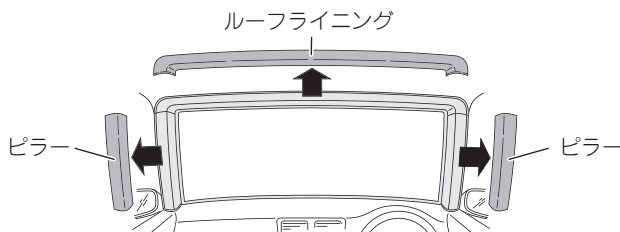
- フィルムアンテナは④用で説明しています。

1 フィルムの仮位置を決める

フィルムアンテナの貼り付けの際、「貼り付け位置について」を参照して仮位置を決め、テープなどで目印を付けてください。



2 車内の内張り（ピラー、ルーフライニングなど）を取り外す



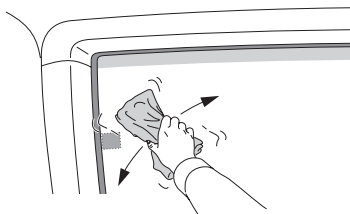
3 ケーブルを引き回す仮位置を決める

フィルムアンテナの取り付け

つづき

4 フロントウィンドウ内側の汚れ、油などを取り除く

フィルムアンテナを貼り付ける場所の湿気、ホコリ、汚れ、油などを、付属のクリーナークロスで取り除いてください。

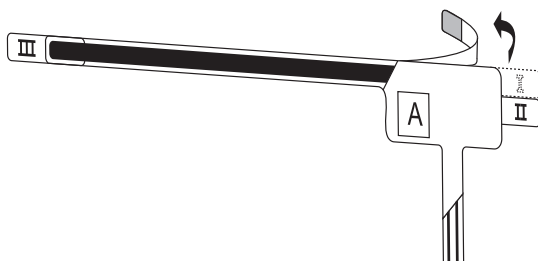


注：クリーナークロスで拭いたあとは、貼り付ける場所およびエレメントには触れないでください。

5 フィルムアンテナを貼り付ける場所を、十分に乾燥させる

6 セパレーター I をはがす

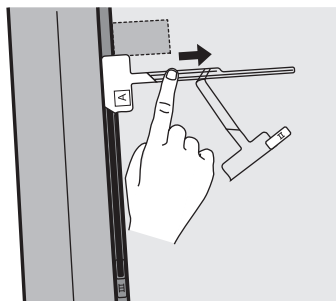
タグを持ってセパレーター I をゆっくりはがします。



*セパレーター I をはがした後は、粘着面に触れないでください。

7 フィルムをフロントウィンドウに貼り付ける

ガラス面の目印にフィルムを合わせ、フィルムに空気が入ったり、シワが寄らないようにゆっくりと端から貼り付けます。また、一度貼り付けたフィルムをはがしたり位置を変えたりすることはできません。

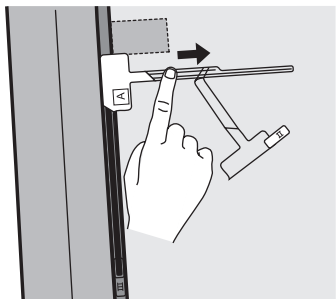


注：十分に汚れ、油膜、水分を拭きとってから貼り付けてください。また、真冬に車内が温かくなると、窓ガラスが結露しますので、十分に乾燥させてからエレメントを貼り付けてください。

* ガラス面が乾いたことを確認してから貼り付けてください。ガラス面が濡れているとフィルムがガラス面に貼り付かないおそれがあります。

8 セパレーターⅡをはがしながらエレメントを貼り付ける

指でエレメントをガラス面に押しつけながらセパレーターⅡをはがしてください。



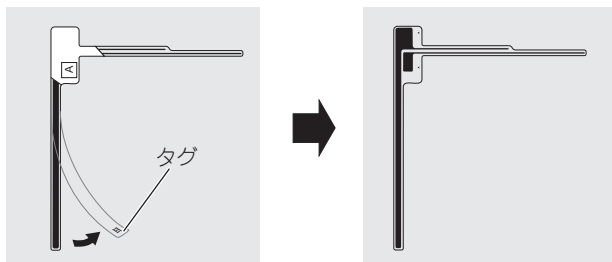
注：十分に汚れ、油膜、水分を拭きとってから貼り付けてください。また、真冬に車内が温かくなると、窓ガラスが結露しますので、十分に乾燥させてからエレメントを貼り付けてください。

フィルムアンテナの取り付け

つづき

9 保護フィルムⅢをはがす

エレメントがガラス面に貼り付いていることを確認しながら、タグを持って保護フィルムⅢをゆっくりはがします。



エレメントだけが貼り付く

注：保護フィルムⅢをはがした後は、手順11でアンプを貼り付けるまでアンプ貼り付け部に触れないでください。

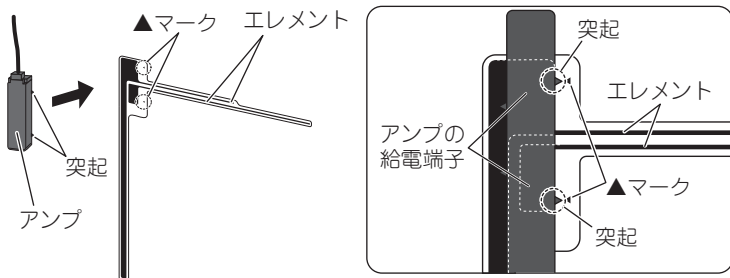
*エレメントが保護フィルムⅢと一緒にはがれる場合は、保護フィルムⅢを元に戻してガラス面に貼り付くように強く押しつけてください。

10 残りのフィルムアンテナも同様に貼り付ける

11 アンプをエレメントに貼り付ける

アンプの裏シートをはがして、エレメントの給電端子接触部の▲マークと、アンプの給電端子の突起を合わせるように貼り付けます。

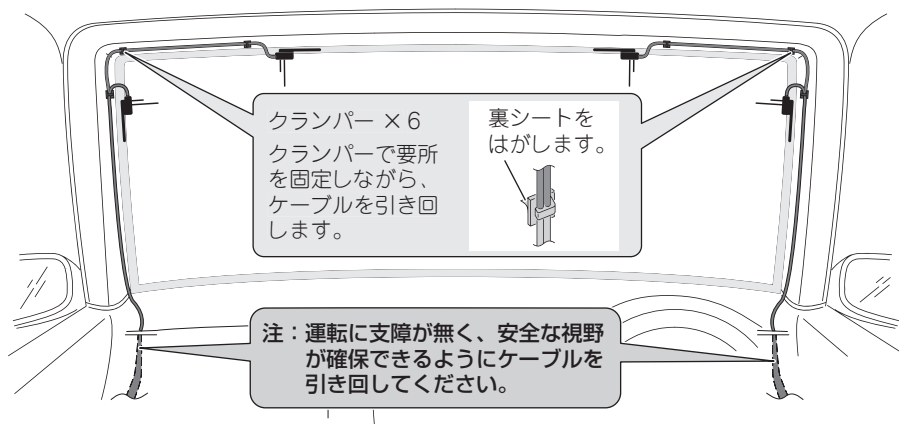
組み合わせるフィルムアンテナとアンテナケーブルは決められています (☞ 39ページ)。アンテナケーブルにある番号を確認のうえ、手順12に記載しているイラスト通り貼り付けてください。



注：ケーブルを引っ張った状態で貼り付けしないでください。

注：フィルムアンテナの▲マークとアンプ部の突起を合わせないと、受信できません。

12 ケーブルを引き回す



注：危険ですので、運転席の足元付近は、配線を引き回さないでください。

13 内張りを元に戻す

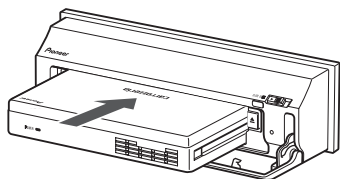
注：アンプのケーブル根元部に負荷がかからないように注意してください。

接続・取り付けの確認を行う

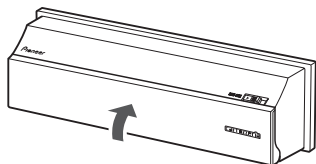
接続・取り付けが終わったら、本機を動作させ、接続・取り付けの確認を行ってください。

1 プレインユニットを「カチッ」と音がするまで挿入する

(☞ 『スタートブック』)



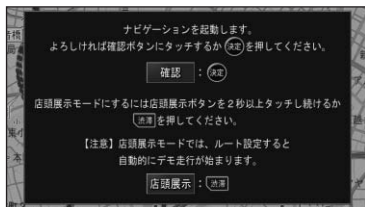
2 フロントカバーを閉じる



3 車のエンジンをかける

車種によっては、専用のバックカメラを接続してエンジンをかけると、シフトレバーをバックに切り換えなくてもバックカメラの画像が表示されることがあります。その場合は、「NAVI/AV」を押してバックカメラの映像を解除し、システム設定の【バックカメラ切換極性】(☞ 49ページ)で「LOW」を選んでください。

4 つぎの画面が表示されたら画面の「確認」にタッチする



この画面は、初期学習が完了してないときにエンジンをかけると表示されます。

注: **店頭展示**にタッチしないでください。タッチしてしまった場合は、一度車のキーを抜いてからエンジンをかけ直してください。

5 「メニュー」を押し、「情報・通信」→「ハードウェア情報」→「取付け状態」の順にタッチする



6 取付け状態を確認する(☞ 次ページ)



メモ

- 正常に動作しない場合は、リセットボタンを押してください。(☞ 『スタートブック』)

■取付け状態画面の見かた

車速パルス：

車速信号入力（ピンクリード線）の接続状態を確認できます。正しく接続されていれば、車を走行させると“ピッ”と発音音がして、数字とバーが表示されます。数字とバーは本機が測定したパルス数をあらわしています。“ピッ”音とパルス数は速度によって変化します。車速パルスの確認は、低速（時速5km程度）で行ってください。

電源電圧：

車のバッテリーから本機に供給されている電源電圧が表示されます。エンジンアイドリング時に11 V～15 Vの範囲にないときは、電源コードの接続状態を再度確認してください。なお、表示誤差（±0.5 V程度）があるため、この表示は参考値です。

イルミネーション：

イルミネーション（橙/白リード線）の接続状態を確認できます。車のライトを点灯させてください。ライトを点灯すると【ON】、消すと【OFF】が表示されます。

バック信号：

バック信号入力（紫/白リード線）の接続状態を確認できます。パーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでから、シフトレバーをR（リバース）の位置からR（リバース）以外の位置にするとLOWからHIGH、またはHIGHからLOWに切り換わります。


パーキングブレーキ：

パーキングブレーキスイッチ（若草色リード線）の接続状態を確認できます。ブレーキペダルを踏んで、パーキングブレーキをかけ直してください。パーキングブレーキを解除すると【OFF】、かけ直すと【ON】が表示されます。


ETC/DSRCユニット：

ETCユニットまたはDSRCユニットの接続状態を確認できます。必ずセットアップしてから確認してください。正しく接続されていれば【OK】、未接続の場合には【NG】、エラーがある場合はエラー番号が表示されます。その右側には車載器管理番号が表示されます。

GPSアンテナ：

GPSアンテナの接続状態と受信状態を確認できます。正しく接続されていれば【OK】、未接続の場合には【NG】が表示されます。右側に表示されるアンテナマークでGPSアンテナの受信状態を確認できます。電波の受信しやすい見晴らしの良い場所で2本以上バーが表示されていれば良好です。バーが1本以下の場合、GPSアンテナの位置を変えて2本以上バーが表示される位置に取り付けてください。

取付位置：

ナビゲーション本体の取り付け状態を確認できます。必ずエンジンをかけた状態で停車して確認してください。停車時に【NG（振動）】が表示された場合は、測位の精度が悪くなります。車の振動が少ない位置にしっかりと取り付けて、停車時に【OK】が表示されるのを確認してください。また走行後に【NG（取付角）】が表示された場合は、ナビゲーション本体の取付角度が許容範囲外です。取付角度（次ページ）を設定し、走行後に【OK】が表示されるのを確認してください。

ビーコンユニット：

ビーコンユニットの接続状態を確認できます。正しく接続されていれば【OK】、未接続の場合には【NG】が表示されます。

Bluetoothユニット：

Bluetoothユニット「ND-BT10」の接続状態を確認できます。正しく接続されていれば【OK】、未接続の場合には【NG】が表示されます。その下には、現在接続中のBluetooth機器の接続情報（接続機器名、BDアドレス、使用プロファイル、受信強度）が表示されます。

※接続情報を確認するには、ナビゲーションのBluetoothの接続設定を行い、Bluetooth機器と通信接続する必要があります。詳しくは『ナビゲーションブック』の「Bluetoothの接続設定を行う」をご参照ください。

通信モジュール：

通信モジュールの接続状態を確認できます。正しく接続されていれば【OK】、未接続の場合には【NG】が表示されます。

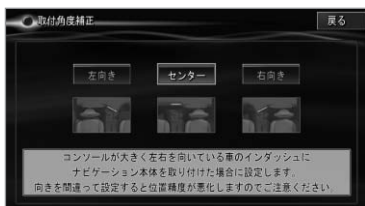
取付角度の設定を行う

運転席側（左右方向）に5度以上（最大10度）傾いたコンソールにナビゲーション本体を取り付けた場合は、本来の性能を発揮するために取付角度の設定を行ってください。

- 1** 「メニュー」を押し、**編集・設定**
— **各種設定** — **取付角度補正** の順
にタッチする



- 2** 設定する向きにタッチする



- 3** **終了** にタッチする

システム設定を行う

本機に外部機器を接続した場合は、システム設定を行ってください。

1 「NAVI/AV」ボタンを押してAV画面に切り換える

2 「メニュー」を押し、**システム設定**にタッチする



3 項目を選び設定を行う



*=出荷時の設定

AV入力設定

【VTR】

本機に別売のVTRまたはマルチDVDプレーヤーなどを接続したときに設定します。

ON : VTRなど、本機でコントロールしない映像機器を接続したとき。

EXT : アナログTVチューナーなど、本機でコントロールできる映像ソースのエクスターナルユニットを接続したとき。

OFF *: どちらも接続していないとき。

【フロントカメラ】

本機に別売のカメラ端子変換コネクタを使用して、汎用のフロントカメラを接続したときに設定します。

ON : フロントカメラを接続したとき。

OFF *: フロントカメラを接続していないとき。

専用フロントカメラを接続したときは、自動設定され、操作することはできません。

【バックカメラ】

本機に別売のカメラ端子変換コネクタを使用して、汎用のバックカメラを接続したときに設定します。

ON : バックカメラを接続したとき。

OFF *: バックカメラを接続していないとき。

専用バックカメラを接続したときは、自動設定され、操作することはできません。

【バックカメラ切換極性】

本機にバックカメラを接続したときに車のバック信号の極性に合わせて設定します。

LOW : 取付け状態画面 (47ページ)で、シフトレバーをバックに切り換えたときに「バック信号」の表示が[LOW]になる車両の場合はこちらを選びます。

HIGH *: 取付け状態画面 (47ページ)で、シフトレバーをバックに切り換えたときに「バック信号」の表示が[HIGH]になる車両の場合はこちらを選びます。

車種によっては、専用のバックカメラを接続してエンジンをかけると、シフトレバーをバックに切り換えなくてもバックカメラの画像が表示されることがあります。その場合は、「NAVI/AV」を押してバックカメラの映像を解除し、この項目で[LOW]を選んでください。

システム設定を行う

つづき

【AUX1 (ライン)】

本機のAUX入力端子（黒）に、別売のポータブル機器などを接続しないときは、「OFF」に設定します。

ON *：外部音声を入力するとき。

OFF *：外部音声を入力しないとき。

【AUX2 (IP-BUS)】

本機のIP-BUS入力端子（青）に、RCAインターコネクター「CD-RB10」（別売）などを接続して外部音声を入力するときは、「ON」に設定します。

ON *：外部音声を入力するとき。

OFF *：外部音声を入力しないとき。

リアモニター出力設定

本機に別売のリアモニターを接続したときに、設定します。

【接続端子】

リアモニターを接続した端子を設定します。

RCA *：RCA端子に接続したとき。

コンポーネント *：コンポーネント端子に接続したとき。

メモ

- 設定し忘れると、DVDなどの映像が表示されません。

【モニター】

コンポーネント端子に接続したモニターのタイプを選択します。

VGA *：VGAモニターを接続したとき。

XGA *：XGAモニターを接続したとき。

【画質モード】

本機にXGAモニターを接続したときに、リアに表示する画質を設定します。

標準 *：DTVソースのときに、リアを標準画質（D2相当）で表示します。その際、フロント映像はD2相当となります。

リア優先 *：DTVソースのときに、リアを高画質（D4相当）で表示します。その際、フロント映像はコンポジット映像となります。



各項目を設定したら、**戻る** - **終了** にタッチし、「**現在地**」ボタンを押す

センサー学習のエラーメッセージ

接続確認と各種設定を完了し、走行を開始すると本機は自動的に3Dハイブリッドセンサーの初期学習を行います。その際、つぎのようなエラーメッセージが表示されたときは、エラーの原因を取り除いてください。

<走行開始後のエラーメッセージ>

- [車速信号線が外れました。接続を確認してください。]
- [車速パルス信号が異常です。接続を確認してください。]
ピンクリード線（車速信号入力）の接続先および接続状態を確認してください。
- [3Dハイブリッドセンサーが正常に動作していません。本体の取付け角度や向きを確認してください。取付けが正常な場合は、お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口に御相談ください。
「ナビゲーション本体の取り付け（P27ページ）」を参照して、取付角度が間違っていないか確認してください。取付角度が正しい場合は、内蔵センサーの故障が考えられます。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口にご相談ください。
- [車速パルスが接続されていません。簡易ハイブリッドで動作します。]
ピンクリード線（車速信号入力）を接続してください。接続すると、3Dハイブリッドで初期学習をやり直します。

<その他のエラーメッセージ>

- [測位不能になりました。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口に御相談ください。]
ナビゲーション本体の故障、劣化等が考えられます。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口にご相談ください。
- [GPSアンテナが接続されていません。接続を確認してください。]
- [GPSアンテナが異常です。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口に御相談ください。]
GPSアンテナの接続を確認してください。正しく接続されている場合は、断線・故障・劣化等が考えられます。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口にご相談ください。
- [内蔵のセンサーが異常です。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口に御相談ください。]
内蔵のセンサーの故障が考えられます。お買上げの販売店またはパイオニア修理受付窓口にご相談ください。
- [取付け位置の変化を検出しました。センサーの再学習を開始します。]
本機の取り付け位置の変化を自動で検出したことをお知らせするメッセージです。

